明治四十三年一月二十日發行

(明治二十年十一月本會創立)

婦人衛生雜誌

第二百四十二號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百四拾二號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜報

大日本婦人衛生會記事

恭賀新年

併て會員諸氏の健康を祈る

明治四十三年庚戌元旦

私立大日本婦人衛生會

謹賀新禧

新潟支會

山形支會

宇都宮支會

高崎支會

米澤支會

大日本婦人衛生會

二月例會通知

來る二月五日(第一土曜)午後一時三十分より神田一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一演題未定　ドクトル　福井虎次郎君

一月經の話　醫學士　河島右一君

明治四十三年一月　私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊員とする其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會々評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことある●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるのとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし附後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は本會々員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送付費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢〻會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

- 總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
- 會長　侯爵夫人　鍋島榮子
- 副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

- 幹事　鳩山春子
- 同　羽田三緒子
- 同　岡田德子
- 同　高木深子
- 同　山本名穗子
- 同　松平芳子
- 同　三浦敬子
- 同　石川貞子
- 評議員　岩下ゆか子
- 同　濱田捨子
- 同　長谷川仲子
- 同　服部繁子
- 同　仁禮壽賀子
- 同　四升子
- 同　土肥多越子
- 同　緒方悦子
- 同　岡山とし子
- 同　小川孝子
- 同　男爵夫人　加藤鈴子
- 同　片山總子
- 同　吉武婦枝子
- 同　丹波貞子
- 同　高橋孝子
- 評議員　田村きよ子
- 同　男爵夫人　南部隈子
- 同　中濱芳子
- 同　山口貞子
- 同　子爵夫人　松井正子
- 同　岸　澄子
- 同　三宅藤子
- 同　宮本榮子
- 同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

（　　　　）

本會特別贊成員（いろは順）

- 醫學博士　入澤達吉君
- 理學博士　石川千代松君
- 醫學士　石原久君
- 醫學士　石原喜久太郎君
- 理學博士　飯島魁君
- ドクトル　飯盛挺造君
- 醫學博士　伊藤隼三君
- ドクトル　伊澤信平君
- 醫學博士　伊東祐彦君
- 色川圀士君
- 岩井禎三君
- 藥學博士　石津利作君
- 醫學士　[illegible]瀬維一君
- 法學博士　長谷川喬君
- 畠山和人君
- 萩原四郎君
- 醫學博士　林春雄君
- 原胤昭君
- 醫學士　橋本左武郎君
- 醫學博士　濱田玄達君
- 男爵　濱尾新君
- 醫學博士　芳賀榮二郎君
- 西田敬止君
- ドクトル　西山信光君
- 本田增次郎君
- 醫學士　鳥居春洋君
- 醫學博士　土肥慶藏君
- 醫學博士　遠山椿吉君
- 醫學博士　大澤謙二君
- 醫學士　大野豐太君
- 醫學士　大西秀治君
- 子爵　小笠原長生君
- ドクトル　小此木信六郎君
- 醫學博士　岡田榮吉君
- 醫學博士　岡田和一郎君
- 恩田重信君
- 醫學博士　緒方正規君
- 醫學博士　大澤岳太郎君
- 醫學士　渡邊房吉君
- 醫學博士　加藤照麿君
- 男爵　加藤弘之君
- 醫學博士　河野衛君
- 醫學博士　河本重次郎君
- 醫學博士　金杉英五郎君
- 醫學士　片山國嘉君
- 醫學士　賀古鶴所君
- 醫學士　[illegible]田通一郎君
- 醫學士　唐澤光德君
- 醫學士　[illegible]野吉君
- 米山彦郎君
- 橫井忠國君
- 醫學博士　高橋太郎君
- 男爵　高崎正風君
- 高嶺秀夫君
- 醫學士　高田耕安君
- ドクトル　高山紀齋君
- 藥學博士　田原良純君
- 醫學博士　田代義德君
- 醫學士　田村光要君
- 醫學士　田村化三郎君
- 醫學士　竹中成憲君
- 藥學博士　丹波敬三君
- 法學博士　高木豐三君
- 醫學博士、男爵　高木兼寛君
- 理學博士　坪井正五郎君
- 醫學博士　土田卯三郎君
- 男爵　辻新次君
- 醫學博士　中濱東一郎君
- 醫學博士　長與稱吉君
- 藥學博士　長井長義君
- 男爵　南部實男君
- 醫學博士　能勢靜太君
- 醫學博士　久保猪之吉君
- 醫學博士　栗本東明君
- 醫學博士　栗本庸勝君
- 醫學博士　隈川宗雄君
- 醫學博士　吳秀三君
- 醫學博士　山田織造君
- 醫學博士　山田弘倫君
- 醫學士　山根正次君
- 醫學士　山上兼輔君
- ドクトル　松山陽太郎君
- ドクトル　丸山良四郎君
- ドクトル　富士川游君
- 布施正齋君
- 男爵　後藤新平君
- 醫學士　古川榮君
- 小高良造君
- 小西信八君
- 醫學士　寺田織尾君
- 醫學士　寺田豐作君
- 寺川勇吉君
- 醫學博士　朝倉文三君
- 子爵　秋元興朝君
- 足立寛君
- ドクトル　朝山義六君
- 醫學士　淺田決君
- 醫學博士　佐藤達次郎君
- 醫學博士　佐々木政吉君
- 醫學博士　榊順次郎君
- 醫學博士　榊保三郎君
- 醫學博士　櫻井恒次郎君
- 醫學博士　佐藤三吉君
- 齋藤淸文君
- 醫學士　笹川三男三君
- 醫學士　櫻井郁二郎君
- ドクトル　佐藤[illegible]雄君
- 醫學士　佐藤德濟君
- 醫學士　澤崎寬利君
- ドクトル　佐伯理一郎君
- 醫學博士　木下正中君
- 醫學博士　桐淵鏡次君
- 醫學博士　木村德衛君
- 醫學博士　北島多一君
- 醫學博士　北里柴三郎君
- 醫學士　北村樹造君
- 醫學博士　北川乙治郎君
- ドクトル　菊池循一君
- 醫學博士　三輪信太郎君
- 醫學博士　宮本叔君
- 醫學博士　宮本仲君
- 宮川保全君
- 理學博士　箕作佳吉君
- 水原漸君
- 醫學博士　三宅秀君
- 醫學博士　三浦謹之助君
- 醫學博士　三島通良君
- 醫學博士　三浦守治君
- 島田三郎君
- ドクトル　志村誠虎君
- 醫學博士　島村俊一君
- ドクトル　日高品君
- 醫學博士　弘田長君
- 伯爵　土方久元君
- 醫學士　百瀬玄溪君
- 醫學士　森田正馬君
- 醫學博士　森林太郎君
- 醫學士　澄川德君
- ドクトル　須田卓爾君



乘馬婦人救護員

口繪の說言

襷十字に白鉢卷、薙刀をこそ小脇に搔込まね、事しあらば祖國の爲に、戰の庭には手負の武者をも勞はりてむと、英吉利のうら若き良家の娘子等が相集ひて組織せる乘馬婦人救護隊ぞこれ。この演習場は、テイムス河の北、倫敦府下イスリントンに在り、凡ての事共も軍隊振に、衛生上の勤務は軍醫によりて教へらる。こはおほけなき、わらはさびとも思はゆれど、近き年頃陸軍に心を用ゐ初めたる英國民の魂合へるか、乙女等がいそしみの甲斐ありて、事いや盛ゆくとぞいふなる。

講演

腸の機能に就て

醫學士　土屋岩保

腸の機能即ち腸の働きと云ふ事に就いて一寸皆樣に御了解になるやうに申上げやうと思ひます、色々自分も考へて見ましたところが之樣な標題に就きましては、專門的の醫學を修めたお方でないと解り惡くい處が多い樣に思はれましたが出來得るだけ解り易く餘り學術に亙らぬやうにお話し致す積りで御座ひます、或は處々お解り惡くい點も御座いませうが、唯其中の一部分なりとも諸姉に御了解になつて、多少の御利益になりましたならば、此上もない幸福と私は考へて居る次第であります。

夫れで腸の働きと云ふことを申上げる前に一寸腸は人體の何の邊に在るかと申すと皆樣も御承知の事でありませうが、一寸圖で以て御示し致しますれば次の樣であります（圖は略す）。

胃の終りの部分は即ち幽門と申しまして此處は彼の癌腫などの最も多く出來るところであります此幽門部の續きが小腸の十二指腸と云ふ處であります、十二指腸蟲病からして之の名を御承知のことゝ存じます、丁度指を十二本横に並べた長け位の處であります、其下の方で渦卷いて居る所が小腸の大部分でありまして空腸廻腸よりなつて居ります。

次の太いのが大腸であります、小腸から大腸に移り行く處の下の方に袋のやうになつて居る所がある之を盲腸と謂ひます、其の下に蟲樣突起と云ふのがある、蟲の樣に垂れて居るから亦蟲樣垂とも謂ふのです、それから盲腸の上部が上行結腸であります、

次の横に走るを横行結腸、次は下行結腸、其次はS字狀部と謂つて、Sの字の形をして居る、夫れから眞直ぐの部分なる直腸に移り行きます直腸は肛門によつて終つて居ります。

それから此の十二指腸の曲つて居る中に入つて居るのが膵臓である、膵臓から一つの管が腸へ出て居る、之れが膵液を分泌するのである、右季肋部に肝臓と云ふ臓器があります、之れから出て居る管が膽汁を分泌するのであるが、膵臓から來る管と、肝臓から來る管が一緒になつて腸の中に其の液を分泌するやうになつて居る、是だけの事は此の働きを知る上に於ても必要だらうと思ひますから一寸申上げた次第であります。

腸の働きと云ふものは何う云ふことを掌つて居るかと言ふと、唾液と胃液とで消化し殘した部分を腸で消化します、其の消化した物をば、腸で吸收し同時に一部分消化しない物をば體外に排出するのである、斯れが腸の働きでありますが、それを御醫者の方の言葉で言ふと、分泌するのと吸收するのと、運動するのとであります、それで先づ第一に腸の消化と云ふことを知るには胃の消化は何んな者であるか、と云ふ大體を知つて置く必要がありますから餘分のことではあるが、一寸一言之處で申上げます、胃と云ふものは、ペプシンと鹽酸とを分泌する、此の鹽酸と、ペプシンとは何う云ふ風の働きがあるかと言ふと極く解り易いことが、二三の食物に就いて例へて申しましたならば、麵麭は主に澱粉質卽ち含水炭素よりなりて居つて其間をば「グレーベル」と云ふ蛋白質で結び付けて居ります、鹽酸とペプシンとは常に蛋白を溶解する、麵麭は蛋白質でないやうであるが澱粉質をつなぎ合して居る物質が蛋白質であつて之れが胃液の爲め溶けますから、麵麭が非常に細かくなります、細かくなりますから、後で腸に行きましても直ぐ消化するのである、若し胃の働きの弱い人であると、麵麭を呑み込んでも、胃に於て細片にならぬから、腸へ行つても十分に消

化しない、恐れがある夫れから玉子肉其の他の蛋白質は無論鹽酸と、ペプシンで、能く消化される、もう一つは必要なのは、結締織の消化である結締織と申しますと、普通の牛肉を例にとれば、筋纖維から成立つて居るが、此の纖維間を結び付けて居るのが、結締織であります、此の結締織は胃液で以て能く解けるものですから、胃が健全であると、此の結締織が能く消化しまして、肉がバラ〱になる、バラ〱になると、鹽酸と、ペプシンとで、容易く消化する事が出來るのであります、それのみならず、腸へ行つても、能く消化する事が出來るのであります」併し此の外に尚近來になりまして、ヴオルハルトと云ふ人の試驗に因ると、胃では蛋白質結締織ばかりでなく、脂肪をも分解する事がわかりました。

胃に於て斯樣な働きを受けた食物が腸へ來て、腸の消化を被る、腸の消化は何う云ふ液で消化されるかと言ふと、第一膵臟より分泌する處の膵液、第二肝臟から出て來る膽汁、第三全腸壁より分泌する處の腸液、の三つの液が集つて此の消化を致すので御座います、其の中の膵液卽ち膵臟の分泌液、此の液は何う云ふ物を消化するかと言ふと、トリプシンと云ふ醱酵素を含んで居つて此物が蛋白質を消化する、譬へば鷄卵のやうな物に、作用しますと「アルブモーゼ」、「ペプトーン」と云ふものになる。

「ペプトーン」は水に溶けて、容易く腸から吸收されるのであります、夫れから次には「チアスターゼ」を含んで居る之れは醱酵素でありまして澱粉及び「グリコーゲン」、(肝糖)に働て糖化せしめ吸收さるゝ。

第三には「ステアプシン」を含んで居る此の物が脂肪に働き脂肪を分解して脂酸と倔里設林とになす、腸はアルカリー性であるから、脂酸とアルカリーで石鹸が出來、其の石鹸は又脂肪をば、乳化さする、之の乳化すると云ふ事は脂肪が非常に小さく分かれて、混じて居る有樣を云ふのです（牛乳の白濁を呈するが如し）乳化されし脂肪は容易く吸收される、斯う云ふ風に非常に必要なる液を、膵臟より腸管

内に分泌して居ります。

夫れから第二は肝臟から分泌するところの液即ち膽汁であります、此の膽汁と云ふものは、昔は不必要のものであつて、肝臟から、膽汁を分泌すると言ふよりも、寧ろ排泄すると言ふ風に考へた事がありましたが、此の頃になつてはさうでない、膽汁は矢張り必要なるものであつて、膵液の脂肪分解の働きをば高める、即ち膵液中の「ステアプシン」だけでは、脂肪が十分に消化しない、之れに膽汁と云ふものが加はると、非常に、「ステアプシン」の働きが強くなり、而して脂肪の消化吸收を良くするのであります

それから次に腸液はドウであるかと申しますと、腸全體より分泌する液で二液より成り立ちます、其の十二指腸の部分にありますのをブルンネル氏腺と申して此處から分泌する液は人に依つて說が異つて居りまして或人は「ペプシン」を作り蛋白質の消化を助けると言ひ、或人はさうでなくして、此の腺は、粘液腺であつて消化には餘り關係がないと言ふ人もあります、腸液の重なるものは、他の總ての部分から分泌されるところの、リーベルキューン氏腺液を云ふのであります、此の腺液は炭酸曹逹なる「アルカリー」を含んで居ります之れは必要なる成分でありまして酸性なる胃と反對に腸は「アルカリー」でなければ消化を營むことが出來ません。

もう一つムチン即ち粘素を含んで居りまして、粘膜の表面を滑らかにするから、食物の消化しない物などが、容易く腸管内を下行して外界に逹することゝが出來るのであります、腸液の消化に關する働は如何にと云ふに澱粉類即ち含水炭素に働いて之れを糖化し吸收せしめます。

ところが數年前までは、此の腸液と言ふものは、蛋白とか、脂肪などには働かなく、單に澱粉だけを消化すると考へて居つたが、露西亞に世界で有名なる、パヴロヴと云ふ學者が出て、澤山實驗をなして、腸液は亦膵液の「トリプシン」と云ふ蛋白を消化する醱酵素の力を高め爲めに蛋白質の消化を助くと云ふこ

とを見出しました。

今申し上げました腸の機能の中の分泌のことを簡單に述ぶれば膵液は、蛋白質、脂肪、含水炭素に働き、膽汁は、重に脂肪消化に關係し、それから腸液は澱粉に働くと同時に蛋白質の消化力を高めるのであります。

然らば此等の機能をば何う云ふ風に檢査するかと云ふに極く簡單に申し上げると一定の食餌を與へて其の糞便を檢査するのであります、例へば肉を與へたとすると、其の肉は胃液で消化するか、膵液で消化するかの二つである、今假りに糞便の中に、肉が澤山現はれた時には、胃が惡るいか、膵臓が惡るいかと云ふ考が起るのであります、胃液よりも膵液の方が蛋白質を能く消化しますからして胃が冒された場合には糞便中には筋肉が出て來ない事がある、これは之の時には胃液をとつて之れを檢査せねばわかりません。

膵液が出て來ないやうな場合には筋肉が澤山消化せずに糞便中に出て來るのみならず脂肪が澤山見へるから膵臓の機能に故障があると云ふ考へが起る。それから脂肪は何うかと言ふと、脂肪は膽汁と、膵液の働きで消化せられます、膽汁が能く出て來ない場合には、黄疸といつて身體が黄ろくなる症狀を起す若し黄疸がなくして、そして脂肪が澤山糞便中に現はるゝ時は又膵臓の機能障碍だらうと云ふ事が考へらるゝ。

それから澱粉の方は先程申上げましたやうに、主として腸自己の働きが惡るい爲めに、消化せないのが普通なるが膵臓の機能に故障がある時に一部の不消化を來します、それ故一定した食事を患者に與へて、其の糞便を調べると、是れは何處が冒されたと云ふことが大體分ります、斯ふ云ふ風に機能檢査を精密に行ふ時には斯る患者に與へる若くは禁忌する食餌が判然とわかり食餌的治療の方針が立ちます、現今日本では何處でも之樣な檢査を行ふて居らない樣ですが、遠からず斯る檢査の方法が一般に採用せらる

る樣になるだらうと思ひます。

次に吸收に就て申し上げますが、昔は胃でも能く吸收すると考へて居りましたが是れも數年前より多くの人の實驗的研究からして胃には吸收する處の機關が備つて居らない、物により胃で以つて容易く吸收するのは、(譬喩へば御酒を召上ると直ぐ醉ふ、其の醉ふのは直ぐ腸に行つて吸收された爲めかと言ふと、さうでない)。

物理學の原則に從ふたる交流作用に因るからである、卽ち體より胃中に水が出て來ると同時に、身體の中にアルコールが這入り行くから此處に胃の吸收と云ふ事が出來るのである。

之れに反して、腸の方には眞正の吸收機關が、備つて居ります、其れ故吸收は腸の方が重に關係して居ります、其の吸收します物は、水であるとか、蛋白が消化して出來た「ペプトン」「アルプモーゼ」と云ふやうな物、それから澱粉ならば、夫れが砂糖類になつて此物等は水に溶解するから吸收される、其の他種々の鹽類と云ふものは、大抵水に溶けますから、吸收されるのであります、次に脂肪は先程申上げたやうに乳化して吸收されますのであります。

斯う云ふ風な種々の物質の吸收は此の小腸に於て行はれまして、大腸の方は主として水を吸收するのである、食物が大腸に行くと此處で水を吸收されるから、固くなつて初めて體外に排泄される、然し乍ら大腸でも水以外の他の物質を吸收すると云ふことは、滋養灌腸からして皆々樣も御承知の事と思ひます、其の時には水ばかりでなく、外の榮養物などが小量なりと雖も吸收される、其內能く吸收さるゝのは牛乳卵黃砂糖類であります、唯澱粉類は、どうかと言ふと、此處には澱粉を消化する腺液が少ないからして、滋養灌腸のときには吸收が困難である然し長く時間がかゝると云ふと澱粉も砂糖になつて、吸收される、脂肪の吸收は一層六ケしい、さう云ふ風に腸の最下部へ行つても吸收作用があるからして、滋養灌腸と云ふやうな都合の好い事が行へるのであ

ります。
それから最後に腸の運動の事を申し上げましやうが之の働は三つに分れてある、一つは蠕動運動と謂つて、蚯蚓の這ふやうな運動をするのである即ち一方が縮まると、他方が弛むと云ふやうになつて、段段と食物を下の方に送ります、第二は振子様運動、第三は回轉運動であります、斯う云ふ運動を絶へず腸は營んで居りますから其爲めに內容物はよく混和され、色々の消化液に觸れ乍ら下の方に段々と追ひやられるのであります。

一體小腸は隨分長きもので、丁度大腸の五倍もあるが、併し其の排泄時間は、小腸は僅か二時間半から四時間に過ぎない、之れに反し大腸の方は十四時間もかゝる、即ち全體で十五六時間以上で食物が糞便となつて體外に排泄される、併し是れは平均の時間でありまして、決して一定したるものでない、人に由りては十時間位で排泄する人もある、西洋人などは、日本人よりも食物の關係上排泄が餘程遲い。

私が御話する腸の機能の事は是れだけで足りて居るか、併し是だけでは、或は色々の關係が御解り兼ねるかと思ひますから、是れに附け加へて、機能に障碍を及ぼした場合、即ち病的の變化を來した時には、何うなるかと言ふ事を少し此處に申上げたならば、先程の關係も多少お解りになるだらうと思ひますから、尚ほ暫時御靜聽を煩はします。

胃と腸と云ふものは、非常に關係のあるもので、腸の障碍が單に胃だけ冒された場合に來ることがある、夫れを例へて見ると胃に鹽酸がない場合、即ち胃の鹽酸缺乏症或は胃の鹽酸減少症、の如き症狀がありますと、腸にそれ程の變化がなくして能く下痢を來す、事がある、或は又鹽酸過多症と云ふものも、隨分多い、殊に日本人には隨分數多くある樣である、之の鹽酸過多症には能く便秘を來す事があります之等は腸が惡い爲に起つたのではなく胃から來たのでありますから、胃を治療すると癒る、譬喩は胃を洗ふなり、又は鹽酸を與へるなりすると消散しま

すから尙更ら胃から來た障碍たる事がわかります。腸機能障碍は先程申上げました樣に是れを分つと、膵臟から來た腸の障碍、肝臟性の腸の障碍、腸自己に因する處の腸の障碍とせねばなりません、此の中で膵臟性の腸の障碍とか、肝臟性の腸の障碍とか言ふことは、醫者の方に屬して、皆樣には御解り惡くいと思ひますからして略しまして單に腸自己が冒された場合に就いて、一寸申上げやうと思ひます。

（以下次號）

叢談

結婚と精神病

醫學士　杉江董

結婚と精神病と申しますと皆樣の中には、或は結婚といふ事が何等か原因となつて、精神病が起るとお考へになるかも知れませんが、そう云ふ事は無いので有ります、萬一そんな事が澤山有る樣では、人間一生の幸福を定むる結婚といふ事は寧ろ恐ろしいものとなり、破鏡の悲に陷入る次第で有ります、故もこゝに申上ぐ可き事は、結婚の式を舉げた晩又は其當座に一種の精神病を惹き起す事が有りまして、元はこれを結婚が原因となつて精神病が起つたものと思つて居ましたけれ共、段々研究して見ますと、矢張り結婚が直接の原因では無く、既に精神病が初まつて居て、未だ他からはそれと覺れない間に、丁度結婚といふ、色々の精神劇動を起す事が誘因となつて精神病と見らるゝ樣になるものと知られたので有ります、この精神劇動といふ事が精神病の誘因となることは、獨り結婚の場合のみでなく、悲哀の感情、不幸な出來事に對する心痛苦悶、或は强劇な驚愕、忿怒等みな精神病の誘因となる事は實例に於ても甚だ多くを見る所で有ります。

こふ云ふ譯で有りますから、直接結婚が精神病の原

因となる事は有りません、さすれば結婚は精神病といふ事に對しては何等の關係も無い樣に思はれますけれ共、其實中々重大なる問題が有るのであります、卽ち精神病者が結婚する場合で有ります、輓近に於きまして精神病の學問が進歩しまして、只今では一般精神病者の結婚は惡るいといふ事に無つて居ります、こゝに精神病者と申しますは、只現在精神病に罹つて居るものは勿論のこと、又現在は健全で居ても一端以前に精神病に罹つた事の有るものも同樣に結婚は惡るいので有ります、又自分の祖先或は父母兄弟に精神病が有つたものも、精神病の遺傳といふ事が有りまして、結婚によりて益々子孫に病氣を遺傳することになり危險が無いとは申されぬので有ります、斯く申せば甚だ多くの人に結婚が出來ないことになり、社會人倫の上からいふと餘り宜敷ない結果が生ずる變が有ります、卽ち結婚を禁じたからとて、私生兒の妊娠出産を防ぐことは六ケ敷いので有ります、こふいふ風に一利一害が伴ふので有りますから、只今の處にては貴顯なればいざ知らず、最高等の人間に對して理想的の結婚禁止といふ事は**到底望んで出來ないことゝ言はねばなりません、**そこで現今精神病學の原則と致しましては、精神病の中でも性質の惡るい後ちに精神の變性を殘す樣なものに罹つたものは絶體に結婚を禁止す可しといふ事になつて居ります、而し只祖先に精神病が有つて遺傳性を持つて居るものだといふ丈けの場合なれば、別段病氣が起らぬ限りは、危險は充分有りますけれ共、結婚を絶體に禁止する迄の必要は無いといふことになるので有ります、而しこの禁止といふ事は口で云ひ易くして實際行ひ難いので有ります、或る説では法律で定めねばならぬといふので有りますけれ共、未だ一般にこふ云ふ説を容れて實行して居ません、或る苛劇な論者になりますと、法律を以て結婚のみを禁止したからとて駄目だ、尚は一歩進んで遺傳の根元卽ち男女の生殖器を外科手術で切り取つて仕舞へとまで云つて居るものが有ります、これ等は

到底出來ない相談も殊に甚だしいもので、社會人道の方面から云つても宜しくないことゝなります、斯ふいふ譯で只今の處未だ法律の力で禁示することは出來ないとすれば、先づ各自個人の反省によりて、自我を處措するといふことは差し向き必要なる要件となります。

斯く申せば世間結婚を仕ない不幸の人が澤山出來て誠にお氣の毒な次第といふ事になるので有りますけれ共、これは而しながら一面に於て、社會全般の幸福安寧を計るといふ大なる利益に比較して思ひ諦らめねばならぬので有ります、また斯樣の人々に對しては諸般の勸誘指導によりて同愛心或は慈善心の樣な美徳を養ひ、自ら進んで身を博愛公共の事業に投ずる樣にし、或はまた學藝美術等に身を委して、孤獨の生活に慰安樂天を求むる樣にする事は必要となるので有ります。

前一寸申し述べて置きました、遺傳といふ事に就きて今少しお話し仕度いと思ひます、輕狂精神病者の結婚を嚴禁せよといふは、遺傳の關係を恐れるからで有ります、只病氣が本人丈けで終わつて仕舞ふものとすれば、不幸は本人のみに止まり、強いて結婚するを制禁するにも及ばないので有ります、而しながら今日の醫學的原則から申しますと、疾患的の關係が子孫代々に遺傳するといふ事は爭ふ可らざることで有りまして、斯くして一般の社會の不幸を來たすといふことになるので有りますから、初めて精神病者結婚の恐ろしき所謂となるので有ります、所で實際に於きましても遺傳は多いので有りまして、精神病者の殆んど半數は祖先に精神病が有つたといふ事が云われて居ります、而しながらこの遺傳の關係は精神病者には必らず祖先に精神病が有つた計りに限つては居りません、或は重い神經病や飲酒家、黴毒等からして、其子孫に精神病が來る例も澤山に有るので有りますから、同時に斯樣な人に對しても精神病者と同樣其の結婚につきては注意が必要となるので有ります、また遺傳は必らず親から子に傳わ

ると限らず、或は一代二代を置いて出て來る場合も有るので有ります、丁度肺結核が遺傳する關係とよく類似して居るので有ります、全體これ等身體的或は精神的遺傳の關係は、人間ばかりで無く、動物にも有るので有ります、而しながら動物に於ては人間と違ひ自然陶汰といふことをやつて居るので有ります、卽ち、生存競爭といふことで弱いものは自然と亡びて仕舞ひ、強いもの計り生き殘る樣になるので有ります、皆さんも色々の動物がお互間の爭鬪や、又は水火風土の爲めに弱いものは死んで仕舞ひ、強いものが生き殘ることは御存じで有らふと思ひます、そしてこの生き殘つた強いものが子孫を產み殘すことをするのですから其遺傳關係も甚だ良いといふことになります、實例で申しますと、年々北國より南方に飛行する彼の遊飛鳥の如きは、中途にして飛ぶ力が盡きて仕舞つた弱いものは死んで仕舞ひ、強いもののみが飛行を全ふにして生殖をやるので有ります、而しこれに反して人間には文明の國民となればなる程弱肉強食といふ樣な生存競爭は無くなり、弱者も同じく生存し生殖を營むので有りますから、自然的の陶汰は到底望まれない以上、どうしても社會全般として弱者病者を保護救濟するの必要が大切なので有ります。

これに相關して大切なる事は、血族結婚で有ります、血族結婚には其の子孫に變質性が出來るといふことは統計によりても驚く可き程で有ります、又同樣變質有る血族同志が結婚する時は忽ち病氣が增惡して終に廢物となつた實例も有ります、彼の憫れむべき白痴、痴愚又は聾啞兒は多くは血族結婚から來て居るといふことを注意せねばなりません、今血族結婚の害を實例を以てお話しして見ますと、彼の動物園に拘禁せられて居る猛惡なる野獸を見てもよく知れるので有ります、段々と其の子孫を見ますと、身體も矮小虛弱となり、性氣も溫柔となるので有ります、これは全く血族結婚の弊で有りまして、若し他から新鮮野生の動物を連れ來つて繁殖さして見ますと、

自然其子孫も亦本來の動物たる性格を現わして來ます。これ等の事實から見ましても、血族結婚は注意せなければならぬので有ります。

そこで前申述べた樣に、精神病者にはそれ相應の法律を設けて結婚を取り締る必要が有るので有ります、現今日本ではどんな風になつて居るかを見ますと、精神病者だから結婚が出來ぬといふ事は無いので有りますが、而しながら精神病者は禁治產と申しまして、財產や又は一身上の處分をすることが自分勝手には出來ないので有りますから、無論結婚をするにも、自分獨りの勝手では出來ない、それには後見人といふものが定めてあつて、其の承諾がなければならないので有ります、後見人の承諾ない結婚は法律上無效となるので有ります、精神病者には或は眞の愛情よりは寧ろ利慾の爲めに結婚する樣なことが間々有りますから、斯ういふ法律は必要で有ります。

次ぎに結婚してから後ちに精神病が起つた場合のお話で有りますが、夫婦の何れの方にしても、精神病にかゝつた程不幸な家庭は無いので有ります。夫婦の情交は勿論のこと、父子の愛情すら無くなつて、只溫血を有する形骸と化して仕舞ふので有ります、自宅に監置するにしても、病院へ預けるにしても他の病氣と異なつて、入院日數も何月何年を要するやも判然せず、知己朋友の見舞慰撫に出掛くる事も效なく、また一方には色々家族の關係や、經濟の關係で其當惑は中々一方ならぬので有ります、然し日本に於きましては、夫婦の一方が精神病にかゝつたからといつて、之れを理由に離緣する樣なことは出來ないので有ります、獨乙などでは、夫婦の一方が精神病にかゝり、三年以上に亙るも輕快せず、尙ほ快癒の見込なき場合は、離緣を持ち出することが出來る樣になつて居るので有りますが、これは西洋と日本との道德が異なつて居るので日本古來の美德としては、夫婦の一方が癈疾となつたとて離緣を許さぬといふのは當然の事と思わるゝので有ります、

されば結婚して仕舞つては、精神病に罹つたからとて離縁することは出來ないので有りまして、病氣に罹つた當人は勿論、夫婦の一方子女を始め家庭全體の不幸で致し方もないとすれば、この際先づ以て結婚の際に於てよく個人としての注意が必要となるので有ります。

左れば終りに臨み、結婚を撰擇するの注意につき聊かお話して置きたいと思ひます、全體其父母に於て、色々の病氣殊に結核、中風、脂肪過多、糖尿病、神經衰弱、ヒステリー、癲癇及び精神病等が有つた場合は、其の子供はまた同樣にこれ等の病氣に對して罹患し易い素因といふものを持つて生るゝもので有りますから、斯樣な子供が結婚する樣な場合には、相手方は一層健全なるものを撰んで、少く共其子供に素因を遺傳さすことを減弱せねばならぬので有ります、世間では往々こゝに注意せずして、只自分の嗜好、外貌、財產等の爲めに結婚をする人が有ります、實にこの樣な事は危險甚だしいので有りまして、一生の悲劇はこゝに萌すので有ります、而して心身の健否を識るは一程度を超へては自分では出來ないので有りまして、これは是非共醫師の力によりて出來るので有ります、結婚前に健康診斷を乞ふ樣な習慣はよいことゝ思ひます、斯くして身體、精神共に健全なる理想的の結婚が出來、社會人道の本義に叶ふことになるので有ります、實に世間に自分や子孫の健康虛弱にして人世の幸福を享くることが出來ない程不幸なるものは無いので有ります、これに反して子孫の健全にして、體育智育共に立派な發展を得れば一家の幸福は如何計りで有りましよふ、結婚の撰擇を重んせざる可らざるは玆に有るので有ります。

恐るべき婦人病

H　S　生

我國の諺に、悔ばぬさきの杖と申すことがありま

すが、衛生上のことも、この言葉を常に守つて行くことが大切です。

病氣になつてから、騒ぐかはりに、罹らないうちに出來るだけの注意をして置くことは、言ふまでもなく大事なことで、病氣を治すよりも、注意して、豫防する方が容易であります。

醫學の進歩につれて、昔は、神の祟りとし、大能の怒りに觸れたものと解釋をして居た病氣も、今は已にその原因が、明になつたものが多くある。從てこれに對する豫防、撲滅の方法など研究せられて、衛生上の利益は、決して尠くはありませぬ。例へば傳染病にしても、昔その原因の不明な時代には、何等施すべき方法もなく、從つて、その蔓延は非常なもので、僅かの間に幾千萬の生靈を奪はれたことは、流行病史を見ると、いくらも出て居るが、今日は、大方は、原因も知れ、豫防法も研究せられたので、昔の様な悲惨なことは、經驗せぬようになりました。

天然痘に罹らぬように種痘を行ふと同じ理屈で、病氣にならぬ前に豫防をしようと云ふ考から、豫防注射と云ふようなことも行はれ、又既に傳染病に罹つたものには、あるものを注射して、傳染病の毒作用を無く仕様と謀り、或は消毒法のことなど、あらゆる點に於て進歩は致して參りました、これは偏へに文明の御蔭と申すべきことでせう。

生を愛するのは、人間當然の務めでありますから、衛生上の注意は、常にこれを念頭から離してはなりませぬ。小さな蟻の穴ですら、遂には堤を破潰するに至ると申します。大事となる前に相當の手當をすることは、緊要なことである。

肺病との診斷は、死刑の宣告のように思はれたのであるが、今日では、その病の初期に適當の處置をすると、多くの場合は、治癒するし、又多少進んだものでも、輕快に導くことが出來ます。

外科の方でも著しく進歩しました、昔消毒法の十分に行はれぬ時代には、殆んどすべて效を見なかつ

たと云ふ程のものでも、今日では、大方は目的を達することが出來る樣になつたし、又以前は、出來なかつた手術も今日では、危險なしに施すことが出來るようになつた、要するに、早く、適當の時期に處置をすれば、危險なるべき疾病も、治癒に導くことが出來ます。例へば盲腸炎の際に蟲樣突起を摘出するような手術は、何のことはなしに出來る、また腫れ上つた扁桃腺を切つてとるとか、或は、腹部の臟器か、身體の隙間から、外の方へ出て、これが極めて危險な場合に立ち至ることがあるが、これもその臟器を元の腹の中に納めて、危險を全く豫防することが出來ます。

婦人病のうちにも、手術を要するものがあります、殊に早く、適當の時期に、手術を受けることが必要です。子宮癌のために、身を犧牲にした婦人は、どれ程あるかわからぬ、今日と雖も、醫者の素に來るのが、晩れたため、已に施す術の無い場合は、隨分多くあります。乳癌もまたこれと同じような關係です。

醫者の檢査を受けて、手術の必要を迫らるるまでに、病者自ら、注意を拂ふと云ふことは、困難なことである。この點に於ては、子宮癌と、乳癌とは非常に著しい差異があります。

何故と申すに、乳癌の方は、その出來始めは、小さなグリ〳〵したもので、それが、漸々と大きくなつて來るのであるから、病者自ら氣づくことが出來るし、又其他の身體の部分にも、幾分模樣がかわるから、餘り大きくならぬうちに、醫治を乞ふことが出來るからです、併し、それも段々大さが增して肋骨や筋肉にまでも蔓延して、そして、皮膚の方へ破れたり、又膿んだものは、中々手術をしても癒らない、何でも早く醫者にかけつけて、診察を請ふのが、一等です。

子宮癌の方では、乳癌のやうには參りませぬ、病者自ら適當の時期を知つて醫者の處へ行くと云ふことは出來ませぬが、併し、これは、年と關係があるの

で、即ち四十から五十までの間に現はれるのが多い、それより以前の者、又は以後のものは、少いのであります。例外としては、二十四五歳のものや、七十近くの人に現れたと云ふ様なこともあるが、斯かるものは、頗る稀なものと申さねばなりません。

子宮癌に現はれる始めの症狀は、多くは、子宮出血と分泌物の出る事であります。其出血も、四週毎に現はれることもあれば、一個月毎に現はれることもあるし、又、不規則に現はれ、或は、月經の際に出血、分泌物の多量に出ることなど、一定しては居りませぬ。

けれども、癌腫が發生した初めの月に、多量の出血を呈するようなことは、極めて稀です。それであるから出血が假令少いにしても、早く醫者の診査を乞ふと云ふことは極めて大切なことであります。

月經の止まつた後、直ぐに或は、程經て、再び出血を見ることがあります。斯様な場合には、いつでも醫者に見せる必要があります。其他此年齢に於て、血液性の分泌物が生殖器から出た時も同じ注意をせねばなりませぬ。

其他の原因で出血を見ることがあります、例へば、頑固な便祕、身體過勞、輕度の外傷（打撲、衝突、墜落の如き）等のために、出血が現はれることがある。斯かる場合にありても、また醫診を要することは、勿論である。

子宮癌の場合に、坐骨神經痛として、處置をせられたことなどもあるから、下腹、臀部、上腿等で、ロイマチス様の症狀があつた場合は、矢張り子宮癌では無いかと云ふ考を持たねばならぬ。

子宮癌を病むだ際には、水様物が出たり、或は、惡臭の分泌物が出ると云ふことは素より少くは無いけれども、併し全くないこともあるから、右様の分泌物がないからと云つて子宮癌でないとは申されない。

大小便の場合に痛みがあつたり、脚或は、身體が腫れたり又、行住坐臥何とは無しに心地すぐれず、

食慾が減じたり、體重が減少して行くようなことがあること、病機が非常な元氣で進行しつゝあると云ふ證據になります。

子宮癌で死亡するものは、都會のものより、田舍に住む人の方が無いのは、畢竟此疾病に關しての智識の少いため、醫治を乞ふことの稀なるか或はその時機を失したためであらうと思ふ。若し、早期に診斷されて、適當の處置を加へられる場合には、立派に治癒することが出來る。

それ故早期の診斷によりて、適當の時期に手術をうけ、醫者をして、既に時機を失せりとの歎なからしむるは、やがて病者の幸福となるのである。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（三三）活ける家の標札

家には標札が掛つてある、標札は家の主人の如何なる人であるかを示す。

顏面は活ける家の標札である

顏面を見れば其人の大體がわかる、獨り現在ばかりで無く、過去も未來も大凡の見當がつく。手の相よりは顏の相を見た方が身の上判斷の助けになる。蓋し腦の神經細胞が日每に感受する細大の經驗は恐く明白に顏面に記載されるからである。消化機關の働らきは身體の生長と發育とに表はれ、毛髮細胞の働らきは新しき毛の發生と舊き毛の增長とでわかり、筋肉細胞の働らきは身體の擧作運動で表はれる樣に、腦神經の働らきも一部は言語や動作などに表はれるが、其最も多くの部分は深く顏面に刻み込まれるものである。或る人の顏を見て、其人が悲境に居る人か、順境に立つ人か、如何なる經歷を踏んで來た人か、如何なる未來を有つて居る人か、怒つて居るか、嘆いて居るか、抑も祕密を抱いて居るか、凡て七情の動搖變化と過去現在未來とがわかると云ふのは全く之がためである『喜怒色に表はさず』と

云ふのは、大悟徹底した聖人君子か、非常の修養鍛錬を積んだ大人豪傑ならばイザ知らず、普通一般の人々は鏡に映つた影の様に**顔で心を讀まれる**のが當然である。顔面を構成して居る筋肉と神經と皮膚と其他の組織とは、如何に些細な、深く祕めた、動作と言語とには露ほども表はさない様な志想感情でも、決して之を取り逃がさず、一々捕へて顔面につなぎ、有りの儘の影で永久衆目に曝らす様に出來てゐる。

顔は大體頭蓋骨と顔面骨とから組み立てられ、夫れが**五十對以上の顔面筋**から包まれてゐる。顔面筋と皮膚との間には軟かき脂肪があつて、顔面の色を白くし且つ其表面を滑かにしてゐる。是等の顔面筋は腦底から出て、顔面に來てゐる**一對の顔面神經**から支配されて、腦の中の精神が思ふことを一々顔面に表示さる。顔面神經は他の部分の神經よりは遙に鋭敏で、殊に精神の動搖變化を顔面筋と其皮膚とに傳ふることが頗る神速明白である。即ち顔面には表情と云ふ作用があつて常に内心を語つて居る。精神上の働きをする人と、下等の勞働に從事する人との容貌を比較すると、前者は活氣があつて一種の勢力を示して居るが、後者は何處となく茫乎として意氣地が無く見へる。これは精神を働かせる程顔面筋も働くからであつて、昔から口をポカンと開いて居る人は馬鹿の相だと云つて居るが、成程精神が絶へず働いてゐれば顔はいつも引き締つて見えるのが當然で、何か物に氣を奪られて呆然として居れば我知らず口を開いて居るものである。繪草紙などで加藤清正や武藏坊辨慶などの英雄を見ると、口は締つて「へ」の字をなし、雙の眉は吊り上つて、如何にも精神の働いて居る、豪ら相な所が表はれてゐる。寢てゐる時は聖人も君子も英雄も豪傑も共に、馬鹿顔た

るを免れない。畢竟、目をさめて居る間は顔面筋は常に働らいて引き締まつて居るが眠つて了へば精神も休息するから顔面筋も從つて其しまりを失ふのである。

前頭後頭筋

と云ふ顔面筋は、額から起つて頭頂を超へ、後頭に終止する所のもので、驚愕、悲哀、恐怖、失望、心痛、注目等の場合に作用して眉毛を上方に吊り上げる。例令は急に驚愕するとか、特に或物に目を注ぐとか云ふ場合には此筋肉によつて眉毛が上り、眼は廣く開き、額に幾條の波が出來る。左右の眉毛の内側には

皺眉筋

と云つて、小さな細い筋肉がある。此筋肉が收縮すれば雙の眉毛が下の方へ引き下げられ、縱に深い皺が出來る、此皺は心のうちに痛み、苦しみ、悲しみ、悩み等のあるのを示すものである。以上二つの顔面筋は『悲哀筋』grief muscles と稱へられ、兩筋共に働く時は、額に縱横の皺が出來る。有名なアリストートルと云ふ學者は、

「たへず額に皺の波を打ち寄せて居る人は、陰鬱な、氣重な物に執著な、而かも我慢強い性質を持つて居る人である」と云ふた。老人の額に打ち寄せて居る年波も、長い星霜の間、奮戰苦鬪した數々を示すものと見てもよい。

眼は口程に物を言ふとは東西共に云ひ馴れた諺であるが、眼が物を言ふためには眼球の後ろにあつて眼球を左右上下に動かす數多の筋肉と眼瞼を開閉したり、涙を押し出したりする多くの筋肉とがある。

口を周匝で、上下の口脣を構造へて居る筋肉は

環口筋

と云ひ、左右の口角に於ては細い幾條の纖維となつて、他の組織内に入り込んで居る。此筋肉によつて上下の口脣は或は閉ぢ、或は開き、或は前に出で、或は左右に動く。而して此環口筋の口脣運動を妨ぐ

るためには、他に何ほ十個の筋肉がある。口唇が諸種多様の形ちになるのは凡て是等の筋肉のためであるが、此中最も愛嬌のあるのは

笑筋

と云ふ筋肉で、左右の頬の部分にあり、心の中に喜び、樂しみ、可笑しみ、面白みなどがあれば、直ぐに口角を後ろに引いて笑顔をつくる。笑筋が能く發達して居る人では、千金にも代へ難き愛嬌の笑靨となる。笑は其人の欺かざる精神の鏡である、有りの儘にうつし出した感情の寫眞である。

ヴイクトル、ユーゴー

と云ふ學者は『神様は犬の笑ひを尾に置いた』"The God has placed the smile of a dog in its tail" と云つたが、成る程犬の笑ひは尾にあるのかも知れぬ。然かし人の笑ひは顔面に置かれてある、雙の頬にあり〱と置かれてある。

此外怒る時、力む時、威張る時、悪む時、謙遜る時、爭ふ時、沈思默考に耽ける時、悲憤慷慨に堪へぬ時、すべて夫れ〱の顔面筋が働いて其思想感情を顔面にうつす。かくて其折々の心が顔に表はれるが、若し或る思想感情が長い間繼續して居るものとすれば、遂には其人の顔面が其思想感情に一致したものとなる。例令ば悲境に沈淪して絶へず身の不遇をかこち、常に生計の困難などを訴へて居る人は、隠れもなく顔に悲相を帶びてゐるが、順境に有福を樂しむ人は心常に悠然として居るから、顔も自づと福相に見へる。

繼子根性

と云ふが、繼子には一種の厭な、ひがんだ、ねぢけた、邪推深い根性がある。此根性に一致して繼子には一種の厭やな相がある、人を見るにも下た目使ひで、横目で、窺き込む様にして、對手が何う感ずるかを檢す様にして見る。物を云ふにも、口を曲げ、顔をそむけ、舌を靜かに口の内に動かす様にして、泣きながらに云ふ。繼母から虐められ、さいなまれ、厭味を云はれて、口惜しい、悪くらしい、何うか讎

を打つてやりたいと云ふ二六時中の精神運動は、五年十年と經つ間に、顔面に深く刻み付けられて、遂に其人の自然固有の容貌となるのである。

良家の娘

などでは、顔の構造、眼鼻の配置に申し分なく、何處として點の打つべき所はないが、何となく扁平として、働らきの無い、間の抜けた樣な、氣廻しのよい貧家育ちの娘に比すれば小兒と大人程の差異のある應揚なものがある。これは實際應揚に育てられて、少しも苦勞心配をせず、適當に精神を働かせないから顔面筋の發達も不完全で、打ち見たところ表情にも乏しいのである。

斯の如く内心が顔面に表はれると云ふことは、教育上にも大に注意すべきことで、小兒を教育するにも鞭ばかり用ひては、徒らに小兒の心をいぢけさせ、其根性を惡くし、其性質を殘忍にさせ、やがては其顔面にまで好ましからぬ相を出す。何か考へたり、勉強などしたりする時、或は額に皺をよせ、或は片目を閉ぢ眉を釣り、或は首を曲げたりする癖があれば、遂に夫れが其人に附いた生涯の顔となり、他日之を矯正するに難くなる。要するに

精神が高貴、潔白、廉直、快活

であれば、其顔面も亦美しく輝きがある、眼鼻立ちは畫に書いた樣では無くとも、何處にか慕ふべき潔き、貴き、美しき所がある。

睡眠と不眠の療法（承前）

神尾驥子

短く深く眠れ

睡眠は時間ばかりで計る事は出來ません、短くとも深く眠りますれば十分でありますが、長くても夢ばかり見て居る樣な淺い眠りでは、少しも心身の恢復を得ず、睡眠不足と同じ結果を生じます、でありますから人によりましては、六時間眠れば充分な人もありますが、又十時間眠つても不足な人がありま

す、佛蘭西の英雄ナポレオンの睡眠時間は僅かに四時間、獨逸の有名な物理學者フッラデーは三時間であつたそうであります、而かも別に短命ではありませんでした。

深く眠るに如何すれば宜しいか

此深く短く眠るといふ事は簡單な事でありますが六つかしい事であります、眠つては自分は知らないのでありますから、其を深くするの淺くするのと自分で如何する事も出來ません、夢を見まいと思つても刺戟があつたり、姿勢が惡しかつたりすれば夢を見るのであります。

周圍よりの刺戟をさけよ

身邊に來る總ての刺戟は睡眠を妨げます、物音、談話等皆眠りの妨害となりますから、睡眠中此等の刺戟の起らない様に注意せねばなりません、併し常に喧しい所に起臥して居る人は、其の音がなくなると却て睡眠を妨げるものであります、水車小屋の人は日夜車の音を耳にして眠つて居りますから、何かの原因で水車が動かなくなりますれば眠りは不安となるそうであります。

眠つて居る間は燈火を消しておく可し

眠つて居る間は眼は閉ぢてありますから燈火があつても刺戟にはならぬと思し召す方がありませうが、其は誤りであります、晝間窓に向つて坐し、眼を閉ぢて、其眼の前に手を動かして御覧なさい、手の運動につれて眼がちら／＼するのを感じます、之れ眼を閉ぢて居つても光線は眼瞼を通じて浸入する證據であります、でありますから睡眠中燈を明るくしておく事は睡眠を不安にし夢を多からしむるものであります、殊に小兒の寢室は暗黒である事が必用であります。

寢牀と枕

「ベット」はなるべく軟かで暖かなものでなければ、眠れる身體に刺戟を與へ、安眠を妨げます、蒲團或は寢臺の一部に堅い所があつたり、濕潤した所があつたりしてはなりません、全體一様に軟かで、暖

かく、乾燥して居る事が必用であります、殊に小兒は大小便を漏しますから、始終注意して、粗忽がありましたなら直ぐ乾燥して居るものと替へてやらねばなりません

そして前にも申しました通り、睡眠中には體溫が低くなります、殊に夜間は體溫は漸次降りまして、午前二時頃より六時頃迄は最も體溫の低い時でありますから寢牀を暖かに保つ事の必用は喋々する迄もありません

枕も堅くては頭痛、眩暈を起し、又安眠の妨害をなします、我國の木枕などは此點から最不衞生的のものでありまして不眠に苦しむ時などは嚴禁であります、

寢室の撰擇

最後に寢室の事も一言せねばなりません、寢室は空氣の流通よき、好く乾燥した、そして日中は十分日光の入る室でなければなりません、日光は黴菌を殺す效があります、濕潤して居る室は之に反し黴菌の蕃殖を助けます、我國の家屋は此等の總ての點に於て西洋風の建築よりは優れて居ります、けれども寢室となれば之と正反對で家中の最も暗い、最も閉まつた風通しの惡るい室を撰んで居ります、斯樣な室に眠つて居ります時は種々の疾病を起し、小兒は發育不十分となり、榮養障碍、不健康の基となるのであります。

晝寢は衞生上害ありや

晝寢は有害であるか又は益ありやに就ては、人によりて意見を異にして居りますが、私共が考へて見ますに、同じく睡眠でありますから有害な筈はありません、唯其有害なのは晝間眠るといふ事ではなく、晝寢する時の種々の事狀が不良なる結果を來したに過ぎないのであります。

其不良の結果を來す事狀とは如何なるものかと申しますに、第一晝間は明るいから睡眠中絶えず眼を刺戟して居る事、二、晝間は夜間の如く靜かなる事が出來ぬ故、身に及ぶ刺戟は絶ゆる事なき事、三、晝

寢は多く夜具を整へずに「ごろね」する爲め、姿勢も宜しくなく、刺戟も多い事、四、蒲團をかける事が少いから冷える事、五、眠る時の不規則なる事等であります。

若し晝間でも暗い室の中で、世間の喧噪から遠かつて、夜間と同じ樣に用意して眠つたならば差はありましても害はないだらうと存じます、夜間の業務を採る人にはに缺く可からざる事であります。

不眠症

以上の樣に注意に注意を加へても猶安眠が出來ないで、夜間度々目が覺め、又は牀についてから一時間も二時間も寢附かれぬ時は不眠症と申します、之は種々の原因から起るものでありますが、一言で申しますれば心身の過勞及興奮とでも申すべきものでありませう、又神經衰弱、ヒステリー其他の神經病、精神病の時にも起ります。

不眠症にかゝりますと、いくら眠らうとしても眠られず、あせればあせる程眼は益々冴え、種々の空想はあれより是れ、是れより彼れへと限りなくまはり來りて、自分を苦しめ、其の切なさは御經驗のない方は想像する事も出來ませんでせう。

不眠症は青年の男女に多い

男は二十、女は十八、漸く一人前の人となる時でありまして、身體の變化も著しく、心の變動も多い時節でありますから、自ら精神の不安も多く不眠症にも罹り易いのであります、此時代を無事に經過いたしましたなら、不眠症を知らずに終るもの多いのであります、併し又老人にも不眠症に苦しむ人が少くありません。

不眠症の療法は澤山ある

眠られぬ時の苦しさは誠につらいもので、且つ完全な睡眠法は少いものでありますから、其療法は十や二十では足りません、そして日に月に其方法の數も增して參ります、就中簡單なる、實用的のものを少し御紹介いたしませう。

就牀前運動する法

睡眠の原因は腦貧血ばかりでもありますまいが、併し腦の貧血は睡眠を催す事が多い所から、世には腦に貧血を起させやうとする種々の不眠療法があります、此の運動する法も其一つでありまして、運動によりて全身の血液を四肢に分布し、腦の方に貧血を起す時は眠らるゝといふのであります。

運動の方法は何でも構ひませぬが、過度であつては却て精神を興奮させますから、適當にせねばなりません、一時流行した鐵亞鈴を振ふ樣な事は少しく過激でないかと思はれます、少くともあの運動は不眠の療法として就牀前に用ゆる事は出來ません、唯平生運動のはげしい人には宜しいかも知れません、其よりは簡易な室內體操などが宜しいのであります、發汗致しましたなら乾いた手巾で全身を丁寧に拭いて、「ベット」に入る時は大層快よく眠られます、大抵の不眠は之で打ちかつ事が出來ます。

散步なども宜い運動であります、步行は足に血液を呼びますから腦の貧血を來すには屈竟の法であります、之も過度になつては却て不眠を進むる事があります、就牀の凡一二時間前に二三十分間位散步するのが最も適當なのであります。

就牀前少量の酒を飮む法

之れも腦の貧血を起す法であります、即ち酒を飮む時は皮膚の血管が擴張致しまして、全身の血液は多く此所に集まりますから從つて腦には血液が少くなるのであります、酒の分量は多くてはなりません。

酒は元來有害なものでありますが、毒も用ゐ方によりましては藥となるもので、亞片、莫爾比涅等の恐るべき毒も少量なれば醫治の效を奏しますと同じく、酒も少量を藥として用ゐるのは差支ありません、藥としては酒も必用なものであります。

酒にも種類がありますが、醫藥として用ゆるものは成る可く純粹なものでなくてはなりません、葡萄酒が宜しいからと申しましても、葡萄酒は却て有害であります、夫れよりは極上等の日本酒の方が勝つて

居ります、通常用ゐますのは然し上等の葡萄酒でありまして、小さな杯に一つか多くて二つ位を就牀前に飲むのであります、多く飲んでは却て眠られなくなります、シャンパン、コニャックなどいふ舶來の酒なら申分ありません。

就牀前冷水摩擦をなす法

冷水摩擦は總て身體を健全ならしむるに有效なるものでありますから、睡眠法としてゞなくとも御勸告致しますが、眠られぬ時に、冷水にて絞したる手巾をもて全身或は上半身を充分に摩擦する時は、心身共に爽快となり、頓に睡氣を催します、又冷水を頭に注ぐのも同樣に有效でありますが、婦人には無理であります、全身水を浴するもの宜しいのですが、冬の日は慣れぬ人には出來ません、水浴の後は充分身體を摩擦し、後乾燥した巾で濕氣を拭き取つて牀に入るのであります。

就牀前溫浴する法

溫浴が睡氣を催す事は誰も知つて居る事でありますが、不眠の療法として用ゐるには、あまり熱からずぬるからざるものへ、十分乃至二十分も入り、充分暖まりて發汗するのを度とし、後は乾きたる手巾にてよく身體を拭き濕氣を取り、冰えぬ中に牀につきますと、數分ならずして華胥の國の人となります、溫浴中あまり身體を探つたり、洗つたりするのは却て宜しくない事があります、併し又差支ない事もあります。

褥中で身體を擦る法

物故せられた侯爵綱紀先生は、眠られぬ時は心をおちつけ、先づ頭を撫で、上眼瞼をなで、次に兩腕側を撫でる時は、よく眠らるゝものであると申して居られました、凡て身體を上より下の方へ向て撫でる、事は一種の睡眠法であります、小供を横にして背を撫でゝやるとすぐ眠ります、又上眼瞼を内側より外側の方になでる時は始め眼が重くなり、次で睡くなります、併し不眠症の人が此によりて眠る事は少し六ケしいのであります、擦つて居る間は睡くなりま

すが、偖眠ろうとなると、精神は再び冴えて參りまして眠られなくなります。

頭髪をさすつて貰ふとか、ふけを取つて貰ふとか、又は耳を掻いて貰ふなども睡眠を催します。

就牀前按摩させるのも一種の睡眠法であります、併し此は青年には應用し難いものでありまして御隱居様といふ様な老人にのみ用ゐらるゝものであります。

精神的療法

以上申しましたのは何れも生理的物理的に睡眠を起す方法でありますが、不眠の原因は腦貧血ばかりではありませんから、生理的療法ばかりでは眠られぬ事が往々有ります、其時には精神的療法を用ゐるのでありまして、何れも巧みに用ゆれば必ず有效でありますが、用ゐ方によりましては少しも效がありません、此れにも種々の方法がありますが、要するに心をおちつけ、精神の安靜を得る法であります。

自分と自分とで談話するを止めよ

眠られぬ時の有樣を考へて見まするに、數限りなき空想妄想が次へ次へとまはり來り、自分は其の空想に就て色々と批評したり、觀察したりして、其間に自分が自分と問答して居るのであります、若し此間答を止め、斯かる事には關係なしと、超然として、空想妄想を顧みなかつたならば、空想は起らなくなり、從つて無我の境に入るのであります、併し此の自分が自分と問答せぬといふ事は易いやうで、大に難い事でありまして、精神の修養を積まなければ出來ません、精神の修養のない人は氣が散り易く、強ゐて何も考へまいと致しましても、強ゆれば強ゆる程種々の考が起つて參りまして、到底自問自答を禁ずる事が出來ません、又自問自答を禁じ無念無想となり得る人は不眠に困る樣な事がありません。

注意を集中する事を務めよ

眠られぬ時には色々の苦情が身體の各所に起るものであります、手足の位置が惡いとか、蒲團が折れて居る、寢卷の裾がもつれて居る、姿が違ふて居るな

どゝ、いふ様な事が一々氣になり、幾度も／＼繰返をなし、其度毎に眼は新に冴えるものであります、之は畢竟注意が纏つて居らぬからであります、又空想が澤山代る／＼出てくるのも一は注意が散漫である爲めで、此注意を一點に集める事は睡眠を得る奥義であります、我々が机に向つて、或一つの事をじつと考へて全く其外の事には眼も耳も借さなかつたならば、即ち注意を其所に集注して氣を他に轉じなかつたならば、自ら氣の遠くなるを覺え、遂に眠くなるものであります。

數息法

數息法は即ち此の理からして睡眠法に應用されたものでありまして、元は佛教の中に精神を佛に集注する考で行はれて居るものであります、方法は何も六ヶ敷事ではありません、牀の中に樂な位置に仰臥して、自分の呼吸を數へるのであります、數へ方は間違つても構へません、實際眠くなるに從て間違が多くなります、そして若し充分に注意を自分の呼吸といふ事に集め得たならば、二十乃至三十乃至五十の間にはいつしか夢の世の人となります、若し注意の集中が足らなかつたならば百に達しても五百に達しましても眠られず、遂に放棄してしまふものであります、此れは法の罪でありませんで、其の人の不熟なのであります、用ゐ方が惡るいのであります。

注意を集中する法は數息法に限らず

注意の集中は呼吸を數へる法ばかりでありません、柱時計の音を數ふるのも、一つの法であります、足の拇指を動かすのも一法であります、又之れも同じく佛教に、「心を丹田集め」とあります如く、注意を腹の眞中に集める法なども皆睡眠法となります、併し何れも數息法に勝るものはありません。

單調の音樂を聞く事

退屈は睡眠を起します、自ら自分と談話するなどいふのも退屈させる睡眠法であります、單調な講義を聞き、僧侶の念佛又は讀經を耳にし、耶蘇の祈禱を

きく時にも睡けを催すは諸姉も御存じで御座いませう、單調な音樂を聞いて居るも之と同じで、睡眠を催すものであります。

就眠前灌腸する法（三）

あまり善い法でもありませんが、色々の事を試みても眠られぬ時には別に六ケしくもありませんから試みるも宜しう御座います、之れは就牀前に屈里斯林か胡麻油の灌腸をなすのでありまして、グリスリンならば一回に二・〇乃至五・〇を、胡麻油ならば一回に三〇・〇乃至四〇・〇を暖めて肛門より注入するのであります、大抵二時間以内には便通がありますから、灌腸の時も就牀の一二時間前にすべきであります、直腸が空虚になりますから大抵快く眠られるものであります。

催眠藥は用ゆ可からず

最後に、如何にしても眠られぬ時の睡眠藥を用ゐて眠るより外はありません、所で此睡眠藥は總て、人の神經細胞に對し、猛烈な毒力を有つて居るものでありまして、假令少量でも危險を醸す事があります、殊に之を數回反復して用ゐました時には、恐る可き結果を生じますから注意せねばなりません、或は一時的危險は免れたと致しましても、頭痛、眩暈、記憶障碍等は殆ど毎回起る不良作用であります、それが積りましては腦の活動を鈍らし、神經衰弱其他の神經病を起す基となります、誠に寒心すべきものであります。

睡眠藥を用ゆる場合

併し如何に害がありましても、二三日も全く眠られぬ時や、數週或は數ケ月の間睡眠不足で、高度の神經衰弱を來し、心身共に疲勞し、身體日に瘦せ行くやうな時には、無理にも睡眠を取らせる必用があります、若し棄てゝおきましたなら、遂に生命を奪ひ去るに至るのは火を見るが如きものでありますから、此時丈けは睡眠藥の害を顧慮する隙がありません、併し其れはなる可く然る可き醫師の治療を受けて、素人療治をして害を貽さぬ樣に注意せねばなり

ません。

不眠と神經衰弱

不眠の療法として必用なるは、又神經衰弱を療治する事であります、神經衰弱が全治せぬ間は、如何に苦心しても不眠は全治するものでありません、不眠は神經衰弱の原因となり、神經衰弱は更に不眠の度を進め、眠られで牀中に悶えて居る間の苦痛は又神經衰弱を昂じさせます、即不眠と神經衰弱とは兩兩相助けて其度を高めるものであります、之れ不眠の療法に神經衰弱の療治が必用なる所以であります。

神經衰弱の療法は轉地に如くものなし

神經衰弱の療法を細しく申上げる事は長くなりますから略きますが、要するに神經衰弱患者は其の事務及家庭即ち煩雜なる生活より遠かり、汚れたる都會を去り、空氣の清き山谷或は海濱に轉地するか或は溫泉の神境に其の氣を養ふ等の事が無上の療法でありまして、醫者の藥に之を癒す事の出來るものではありません。

不眠の原因を去る事も忘れてはならぬ

不眠の原因を探求し、之を除く事は忘れてならぬ事であります、青年時代の不眠は、よく戀愛失望等より發する事がありますから、之は其の父母殊に母の注意して忘るべからざる事であります。

催眠療法

終りに望みまして、不眠は催眠術によりて治癒する事が出來る事を申上げて置きます、催眠術は眠りを催す術と書きますから、眠らせる事は其の本分だと思つて居らるゝ方も御座いませうが、併し催眠術で眠らした狀態即催眠狀態は、睡眠狀態とは大いに異なるものであります、催眠術に掛つても心身の疲勞が恢復するものではありません。

催眠術で不眠を直すには、患者に催眠術を施し置き、催眠狀態に於て今夜は眠られるゝといふ事を、暗々と說き聞かせて、術を解くのであります、斯樣な事を一日一回づゝ數日間繰り返せば、旬日の中によき

眠りを得る様になる事疑ありません、世には催眠術は魔術であると心得て、之を大層恐る人もありませうが、斯術に堪能な人が施す時は少しも危險のないものであります、素人が之を用ゆるは併し謹しむ可き事であります。

（完）

育兒

脊柱彎曲の一因

D.T.生

小學の兒童に就て調べて見るに脊骨の曲つて居るのがなかなか尠くない。それは只前の方へ弓なりに曲つて居るものばかりでなく、平假名のくの字なりのもあれば、左向のくの字もあり、色々の曲方をして居りまして、これが中學校に行つても直らず、一生それなりに固まつて仕舞ふ。若し軍人として新兵の格で入營すれば、直ぐ姿勢を正される。左の肩が高いとか、右の肩が低いとか、背が折れて居るとか、やかましく言はるゝが、久しい間骨から曲げて來たので正しい姿勢を取るのは餘程困難であります。それで此の脊柱彎曲を豫防する爲に、學校でも家庭でも種々の注意を致す様になりまして、學校の机も腰掛も凡て衛生上の法則から割出して作られ、課業の休憩時間には色々の運動をやるやうになつて居りますが、これは是非必要なことで、誠に結構な事でありますが、兒童の脊柱彎曲は、教場の讀み書きの時の姿勢が惡い計りが原因でない、尤もこれが大なる原因の一つであることは事實でありますが、これだけではありません。その他に色々の事もありませうが、一寸氣が付かぬ、も一つの原因は、學校道具を風呂敷に包んで左腋に擁へて通學することであります。之は誠に些細のことで別に氣を止めませんが、兒童の脊骨の曲るのは、凡て極く僅かの骨を曲げる傾ある働が續いて起るのでありますから、餘程

注意しなければなりません。

尚ほ一つ玆に注目すべき原因があります。それは、やうやく驅け出す位の子供が大人に連られて歩く時の樣子を見れば能く分かることで、一寸槪ると、此の兒は、甚く體が歪んで居るが、不具ではないかしらんと疑はれる程である。乃はち身體の兩半が全く釣合を失つて居る。體の一側に垂下つて、他の一側は骨盤に對して延びて居る樣な風で、一方の肩は高く、一方の肩は低く、頭は一側に傾き、片足は全く地を蹈むが、片足は辛うじて地に觸れる、而して上體は下體に對して、前の方に振れかゝると云ふ誠に奇妙な格好であります。

此の有樣は、簡單な計算で以て、よく說明がつく。先づ驅け出し初める位の小兒の身長は、大凡八十センチメートルあるとする。頭の高さと體軀の丈の割合を色々に測つて見ると、此位の年の小兒では、身の丈は、大約頭の高さの五倍ある。それで此の小兒の體軀では、地面から肩までの高さは、(頭の高さ十六センチを差引き)六十四センチであります。又小兒の手の長さは平均二十五センチとして、これを眞直に擧げて、指の先を伸ばさせますれば、全體の高さは六十四に二十五を加へて八十九センチとなります。扨てその腕を捕へ、又眞直にするのと斜にするとの差を合算すると大凡二十センチ減じますから、手を伸して大人に連れられて歩く小兒の長さは六十九センチある譯であります。次に大人の手の長さは平均六十五センチメートルあるとし、これを下の方に延ばしますと、地面から平均七十五センチ離れて居りまして、これで都合好く小兒の手を引くことが出來る。所が今その手を側にやつて、肘と手首を曲げることになると平均二十センチメートルだけ短かくなる。

そこで小兒の持たれる手は、地から六十九センチの所に在るとし、これを引いて歩く大人の手は九十五センチの高さに在るから、玆で二十五センチの差を埋めなければならぬ。これを如何にするかと云ふ

に、大抵は小兒の腕と肩を引上げることになるのであります。

小兒を牽いて歩くのは、大抵左の手を持ちますから從つて小兒の左側の方が惡い影響を受ける。實際脊柱彎曲は左の方が多い傾があるのであります。一方の肩を下げて而して一方の手を上げると云ふことになりますから、背柱彎曲の起るのにはその危險が二倍する譯であります。

此の如く小兒の身體に害を及ぼすことは明かでありますから、これは避けるやうにしなければならぬのですが、それには、小兒を連れて歩くときに、左の手と、右の手と時々交換るやうにし、又大人の方から出來るだけ小兒に適する姿勢を取り、乃はち手を下の方に伸ばし、肩を下げるやうにしなければなりません。斯様に小兒の自然の發育を害するやうな一切の事を取除けば、この脊柱彎曲の危險も尠くなる譯であります。

小兒の脊柱彎曲は、獨り學校の責任である様に申したのは、古い話で、學校の方で十分衛生的の注意をして見れば、今度は家庭の方の罪が明かになつて參りました。これは單に脊柱彎曲の一例に過ぎませぬが、その他の事につきましても、母なり養育者なり平素十分小兒の身體の細かい所に迄衛生上の注意を拂つて、學校、醫師等と相提携して完全なる發育を計らなければなりません。

こども

T.K.生

明治も本年で四十三年と云ふ目出度い年を迎へることになりましたが、さて日本の歷史を見ましても四十年以上も同じ年號の續いた年は、明治の有り難い年を除いては、他に見出すことは出來ません。吾々はこの祝すべき御世に產れ出たことは、實に幸福なことであつて、この幸福に對して感謝の念を忘れてはならぬ次第であります、然しこの幸福は只吾々は

かりで樂むべきものではなく、將來吾々の子孫として、この世に生れて來るものにも、頒ち與へねばならぬ義務があるのであります。

さて吾々の生活して行く間に、爲すべき事業は非常に澤山あつて、夫々人々に依つて、種々樣々に違つて居るものでありますけれども、人間が一個の生物として、世の中に現はれて來た以上は、生物としての一大義務として、自分の子孫を繁榮せしめんことに努めねばならぬのであります、自然界の總ての生物は動物であれ、植物であれ、必ず自分の子孫を繁榮せしめんとする意思を持つて居るもので、又子孫を繁榮せしめんとする器官は、生物の種々の器官の內で、最も大切なものとして、種々の保護裝置を備へて居るものであります、又魚類や、蜘蛛等は何故あんなに澤山子を產むものであるかと云ふと、これは甚だ理由のあるものであつて、これを以ても造物者の技術は如何に巧妙であるかゞ想像することが出來るのであります、魚類は常に水の內に游ぎ廻つて生活して居るものであつて、其他の動物の樣に一ケ所に住居と云ふものを備へて居ないものでありますから、子供を產んでも、これが未だ卵である內は、それを大切に保護して育て上げるに便利な場所がなく、又自分も卵のそばに居て、始終これを保護して居ると云ふことも出來ないものであるから、折角產んだ卵は他の魚類のために、食はれたりしエハ子孫の繁榮を望むことは大變困難であります。ところが幸ひ產まれる卵の數が多いものであるから、少し位他の魚類に食はれても、子孫が滅亡すると云ふ恐れはないのであります、蜘蛛が澤山の子供を產むのも矢張これと同樣の理由に依るものであります。斯の如く下等の生物に至るまで、自分の子孫を絕さない樣にすると云ふ考へは、自然に備はつて居るものであります、それ故子孫の繁榮を計ることは、各生物の義務であると云ふことが判るのであります。

以上述べました樣な次第でありますから、生物中の最高位を占めて居る、吾々人間も亦子孫の繁榮を計

ると云ふことは、生活中の一大事業であつて、而も人間としての義務であるのであります、ところで世間の人は實際この義務を十分に盡すことの出來るものばかりであるかと申しますと、なか〳〵さうではなく、自分の子孫の滅亡して行くことを防ぐことが出來ないで、下等の生物にも劣つて居るものが澤山であります。佛蘭西では年々人口が減少して行くと云ふことは、誰れでも知つて居ることでありますが近來又獨逸でも、この傾があると云ふことであります、日本では幸ひ、そんな恐るべき現象はありません、さて何がために人口が減少するのであるかと云へば、人が增えないからであります、人が增えないと云ふことは、二樣の意味を以て居るものでありますが、その一は小供が生れないと云ふことで、他の一は小供は生れるけれども、これが成長しないと云ふことであります。人が成長して一定の年齡に達すれば、老衰して死んでしまふことは、到底免がれないことでありますから、これは人口の減少する理由として舉げることは出來ません、佛蘭西や獨逸の人口が年々減少して行くと云ふのは、小供が生れないのか或は生れた小供が成長しないで死んでしまうか孰れかに原因を持て居るものであります。

さて小供が生れると云ふことは、男女が結婚すると云ふ條件が必要でありますから、何かの理由で、結婚する人の數が減つて行けば、自然小供の生れる數も減る譯であります、而してこの結婚することが尠くなると云ふことは少し考へればすぐ、理解することが出來るのであります、卽ち世の中の進步するために、人間の生存と云ふことが、昔よりは餘程困難に成つて來て、人が一人前と成つて、一つの家庭を作つて生活しようとするには餘程の資力を必要とする樣になつた結果として、結婚する數が減じたことと、又同じ理由で昔よりは、年を取つてからでなくては結婚することが出來なくなつたために、全く小供の出來ない家庭が增えたことなどは明かな理由であります、其他種々の理由に依つて、小供の生れる

數が尠く成つたことは、世間一般の學者が說いて居るところであります。

それから、生れた小供が成長しないで、早く死亡してしまうと云ふことに至つては、又世の中の進歩と密接な關係を以て居るものであります、リーベと云ふ獨逸の醫師は疾病と貧困との關係に就て研究致しまして、折角生れた小供も、母親の職業のために、十分の養育を受けることが出來ないから、段々身體が弱くなつて、五六歳迄の間に死んでしまうと云ふことを述べて居ます、このことは、非常な問題であつて、夥多の富を積んで、中等以下の社會を全く知らない樣な人には、奇怪に感ぜらるるかも知れませんが、實際大問題であります、又小供が育たないのは只貧困者の小兒ばかりではなく、人工榮養と云ふことが、大なる原因と成るものであります、日本では小供を育てるのに、母の乳を用ふる習慣でありますから、小供のためには餘程幸福なことであります外國では小供に乳を飲ませると、母の容貌が惡るくなると云ふ理由の下に、牛乳や、穀物の粉で小供を育てることが習慣と成つて居る故に、大變惡るい結果を齎らして居ります、日本でも近來この風習が流行する樣で甚だ、遺憾に思ふ次第でありますが、然し中流以下の社會には全くこの風習を見ないことは聊か意を強ふするに足るものであります、外國では中流以下の社會でも、母が職業に從事して居るために、乳を飲ませることが出來ないから、自然に人工榮養を行ふと云ふ有樣であります、この樣な風習は我國に輸入したくないものであります。

又小供は生れ、克く成長して立派な人間となつてもその精神が不完全に發育して、居るものが澤山あります、譬へ馬鹿と云ふ程ではなくとも、普通人並とは餘程變つて居る小供は世間に澤山ありますが、これに就ては、母親は餘程注意せねばなりません、殊に女の小供は早く智恵がつくものでありますから、その育て方には餘程注意をしないと、身體は立派に出來上つても、少しも世の間の利益をしない人間に

成つてしまいます、世の中には自分の子女を可愛がり過ぎて、殆んど人形あしらひにし、まだ乳臭い時分から綺羅を着飾らせ、髪は何々帶はどんな模樣が似合ふとか云つて、腐心する母親が隨分ありますがかやうにされた子女は必ず虚飾の奴隷となつて、脂粉を施さない女子を見ると、田舍者だと嘲けり、美服を纏はない人を見ると、乞食だと笑ふやうになる從うて人間の美しい精神、たとへば慈悲といふやうな優しい心が無くなつて、無情な人となり、更に進んでは殘酷な人となつて了ひます、そして無論かくの如くにして養成されまするど學問や技藝などより寶石の指環や金の時計が貴くなり、貞淑節操よりも西陣の帶や友禪染が貴きものとなりて了ひ、遂に一身を誤らすことになるのであります、又かゝる虚飾の人となつては、嫁に入つても自分の身裝ひばかりに忙しく、家事は捗らずまた例へ縮緬や緞子などの善惡を鑑別することが出來ても、野菜や肴などの煮物一つ出來ぬと云ふやうな役に立たぬ主婦を作り上げますですからかかる主婦にして家庭が旨く治つて行く道理がありません、かやうな主婦がまた人の親となつた時は、また之を自分が小い時されたやうに虚飾の人と爲て了ふやうなことになつて實に仕末にいけなくなります、そして徒らに天下無用の人を作るのですが、その罪は我が子を人形のやうに弄んだ母親にあることは明白であります。

でありますから、小供を育てるのには、只身體のことばかりに、心を用いないで小供の精神の發育を完全にすることにも、十分の注意を拂はねばなりません。

（未完）

生前教育の必要

H. S. 生

衣服や、家屋の改善の樣に人間の改善は、人の手と金丈けでは、目的を遂げるわけには參りませぬ。

けれども、これは決して失望すべきことではありま

せぬ、人間と云ふものは、人の力で家を建てるように早くこしらへたり、又金で買うことの出來ぬ程に貴いものであります。

されば生れついた性質と云ふものは、附う俄かに變化するものでは無い、けれども、心を盡して、去年よりもより善くし、今日よりも、明日の方が、一段と優つたものにならなければならぬと云ふことは、誰も異存を申しますまい。

まづ第一に我々はいつも新しいものにならねばならぬと云ふことでありませう。黴が生えたり、黴菌が勢力を逞ふするようでは、一向つまりますまい。病氣の器になつたり、藥瓶を年中不二の友となるようでは、心細いでせう。どうしても我々が、進歩をしよう、發展をしようと云ふには、強健と云ふ武器が第一に必要です。

人生の旅立に第一眞先に立つものは、強健と言ふ武器です、この武器が、我々の旅路を安全にしてくれます。

この武器を得るには、なんでも自然に適した生活の方法を守ることです。自然の方則を破るとその因果が直ぐ自分の身に及んで參ります。

自然の方則にかなつた生活と申しても、そんなに、六かしく考へる要は無いので、例へば、我々が毎日榮養分にして居る空氣、日光、勞働、休息、皮膚の養生、害のある榮養物や、嗜品の濫用を避ける樣なことであります。其他にまた、男女生活の規則、身體や、精神や、品性等の修養も大切なことである。

昔ショーペンハウエルと云ふ人は、小兒の性格は、父より、理解は、母より受けるものであると云ふことを證據立て、そして、惡徒は、悉く睾丸を切りとつて、馬鹿者は、これをお寺へ押込んでしまへばよからうとまで申した、若しこう云ふことが、眞面目のものとして考へられないならば、外にただ二つの重要なことがある、それは、人種を純粹に保持することと、もう一つは、生れつきで、重い病氣を持つて居るものは、子を生ませぬようにするとよからう

と言ふことです。

人間の改良を容易くしようと思ふなら、教育と云ふものは、我々の出逢ふ問題のうちで、一番六かしいものと考へて、生れて來るより以前に始めねばならぬ。即はち小兒は、母の體內に九個月の久しい間生活をして居るのであります、此時代に十分の教育をして置くのは、餘程必要なことです。

今日は、兒童の教育と言ふことが段々盛になりつつあるので、誠に結構なことであるが、素より教育の效は、決して度外視すべきものではない、が、生れつきと云ふものは、教育の力よりもつと強いものと思はしめる場合が餘程多い、遺傳の力と云ふものは我々が、到底考へることの出來ぬ程に大したものだと申さねばなりませぬ。

詩聖ゲーテも、兩親の教育が、十分に出來て居るなら教育された小兒を生むことが出來ると云つて居ります。

然し又世の中には我々のまだ理解することの出來ない種々の例は多くありますけれども、植物の繁殖や生物の發育の方則などを考へて見ますると、これは決して、無用のことではない。心ある人は、必ずこう云ふ處に考を及ぼして嚴格に言ふなら、母になるべき人の教育をするよりももつとずッと以前、即ち結婚の事にまで遡つてまでも注意をせねばなりませぬ。

結婚は、人生の問題が生ずる根本です。人生の六道の辻は、結婚にありと申してもよいと存じます。

斯く言へばとて生れてから施す教育の力を忽にするものではありませぬ、教育の力は、いつでも、強いもので、つまり早く教育をすると言ふことが、人間教養の要義だと申すのであります。

これに關して二三の事實を紹介いたしませう。

獵師が、最良の獵犬を得ようとするには、孕んで居る牝犬を獵に連れて參り、每日獵の練習を適度にさせると云ふのが、最良の方法であると云ふことである。

アラビア人の風俗習慣を耳にせる人は、知り給ふべし、同地にては、善且美なる馬を得んがため、孕める牝馬の看護は、出來得るかぎり注意をすると云ふではありませんか。即ち孕める馬は、これを乘馬學校に送り練習をさせるのです。そうすると其子馬は人を乘せるに巧妙の性を有すると云ふことです。
話は前に戻りますが、彼の孕める牝犬を水中に入れて泳がせることが多いだけそれ丈け、生れた犬は、水を泳ぐ性向を持つて居ると云ふことであります。又犬でも、猫でも、やさしい性質のこどもを得んとならば、牝獸が孕んで居る間に、決して怒らせぬことであります。
動物は、右の樣な關係であるが、動物丈では無い、人間にも證明が出來ると申すことである。至極近頃の話でありますが、リーバウルトと云ふ敎授は、近頃一人の娘の子を得たが、其子の皮膚は、小さな褐色の斑紋が出來て、その上には毛が生えて居て、丸で虎の皮の樣に見えたと云ふことである。これは、不思議なこともあるものだと思つて見ると成る程其夫人が懷姙中に、虎を見て、非常に精神を劇動したことがあつたと言ふことである。
又ある學者の話によると、宗敎の集會のあつた際宛も姙娠中なりし一婦人は、ピウスの像を強くみつめて居たが、その後生れた子は、偶然にもよく似て居たとあるが、或は偶然でなかつたかも知れませぬ。
その外詩人ビヨルンソンと言ふ人は、自分の細君に就て次の樣な面白い物語をして居ります。

（以下次號）

家庭衞生

家庭に備附くべき醫療品

醫學士　A．B．生

進步した考を持つて居られる主婦は誰しも家庭定備

の醫療品目を知りたいと望んで居られるに相違無い此頃の世の中に、血が出るからと云つてたもとくそを貼り附けたり、腫物の中へ觀世撚りを通して置いたりする様な人も有りますまいが、然らば如何なる醫療品を備へて居られるかと聞かれたら困ることと思ふ。中には又、醫療品を家に置く位ならば醫者の必要は無い、其爲の醫者ではないか、何時でも病氣になつたら直に醫を招けば足ると云ふ人もあらうが、大事な子弟の健康をさう迂濶に考へて居る人に用事は無い、何でもない創傷から生命に拘はる傳染病を起したり、一分時の遲ひで見す〳〵毒に中てられたり、少し位氣分が惡いと思つて居る間に三十九度四十度の高熱になつて居て手後れになつたりする様な事が恐ろしい人は、多少の醫療品は是非共家庭に常備して置かねばなりません、殊に多人數の家內等では聊かの事で毎日醫者を招ぶ譯にも行かぬので、つい打捨てゝ置き易い様な場合には是非必要であります夫故に左に家庭に備ふべき醫療品や藥品を列記して各其使用法や效能を述べませう。

一、檢溫器

之れは家庭は勿論の事、個人の旅行の様な場合にも必ず持つて居らねばならぬ、人間の體の中に何か故障が起つた時には、大抵の時には先づ體溫が上る、醫者が病人を毎日見て居ても體溫を參考にせずにはわからぬ事が多いのである、檢溫器の用法等は說明せねばならぬ様な人はあるまいが、腋の下に挾んだ時に檢溫器の頭が後の方へ出て居る事があるが、之れでは正しく計れぬから、頭を腋の下の窩みの奥へ押込んで置かねばならぬ、又腋の下に汗が出て居ても正確には計れぬから、十分拭つてから插入せねばならぬ。又檢溫の別法として、腋下の代りに口中で計る事もある、洋服其他面倒な衣服を著て居る人等には此方が便利が多い。人の體溫は健康な人では普通三十六度から三十七度の間を示して居る、三十七度以上あらば何處かに多少の故障があるものと思はねばならぬ。故に何か身體に異常の感が有つた時に

は直に檢温して三十七度以下なればよし、以上ならば何度何分と明かに記して置いて其後數回檢温して(少くも一日朝夕二回)三十七度以下で續けばよいが以上ならば成べく早く醫者に相談せねばならぬ、斯くすれば病氣が手後れになるやうな事は無い、加之ならず又醫者が診察する時に受診以前の體温の經過が明であらば診斷に非常な利益がある、熱性症の如きは突然診察しては如何なる大家にも斷言し難い事がある、其時に夫れ迄の體温表があらば其爲に診斷が早くつき、治療にも便利であるから、危險な病氣も助かる樣な事と成る。檢温器は是非手近に置いて常に使用する樣にせねばならん。

一、絆創膏

之れも多くの家には備へて居られる事と思ふ。小さな傷には實に便利である、人間の皮膚の表面には無數の黴菌が附著して居るのであるが、皮膚の表面に居ただけでは別段何等の害をも成さぬのであるが、身體の中に入つて來れば病氣を起す、然し健康なる皮膚からは大抵細菌が入つて來る樣な事は無い、創傷が出來れば直に其處から入る、如何なる小さな傷からでも入る、人の目で見ては氣の附かぬ程小さな所からでも入る。黴菌が入れば入つた所に先病氣を起す、膿となる、腫れる、痛む、時には其處に止らずして病氣が廣がる、足の指を傷をして鼠蹊部にぐり〳〵が出來たり、其途中が赤く腫れ上つたりする事は珍らしく無い。そればかりか時とすると創傷から入つた病氣はずつと廣く身體中に廣がつて生命を傷はれる事もある、丹毒や破傷風やペストや恐ろしいものは澤山ある。此樣な病氣は他人事と思つては居られ無い、何時入り來るかも知れぬ。夫故に先づ何は兎もあれ病毒の入口を閉鎖して置けば云ひ分は無いのである、其閉鎖器が即ち絆創膏である。絆創膏は斯く傷を蔽ふ爲のみならず、之れには消毒藥が混じてあるから若し蔽ふた傷の部に既に黴菌が附著して居ても、夫れを殺して無害とする效力がある。之れは甚だ粘著力の強いものであるから之れだけ

貼つて置いて多分は大丈夫であるが水にでもつける樣な時には此上に更に一寸した繃帶片で括つて置けば安全である。又絆創膏の用は傷に直接に貼用する外、綿につけた軟膏やガーゼの如きものを創傷部に固定する爲にも重寶なものである。

一、ガーゼ

ガーゼも創傷部等を蔽ふ爲に廣く用ゐられる、凡そ創傷部を蔽ふと云ふのは如何なる目的かと云ふに、前にも述べた樣に傷所に黴菌の來る事を防ぎ止める目的と、傷創が外界からの凡ての刺戟に觸れぬ樣に蔽ふのと、今一つは創傷部から出て來る分泌物を導き出す目的とである。小さな創創ならば不必要の事もあるが少し大きくて膿や漿液の分泌がある樣では蔽ふたばかりでは困る、中からの分泌物は外へ導き出さねばならぬ、絆創膏では此用には立たぬ、外へ出る事が出來ねば中にたまる、たまればたまる程中の方へ廣がつて病を重くならしむる事は當然である然るにガーゼは極めて粗く織つてある薄い布であるから液體が浸み出すには最も適當である。併しガーゼを直接創口に貼つけるにはガーゼは無菌にしたものでなければならぬが、家庭では滅菌消毒をする譯にもゆかぬから、嚴密にする時には後に述ぶる消毒用の液體に浸したのを用ゆる樣にすればよい、ガーゼは軟い布であるから傷所や粘膜を拭ふにも大變都合がよい、軟膏を延ばすにもよい、液體がよく泌むから罨法をするにも便利である。無菌のガーゼを使用する爲には自家で普通のガーゼを藥液に浸して用ゐてもよいが、特に又斯かる液に浸して乾かしたるガーゼを買ふ事も出來る。昇汞ガーゼ、ヨードホルムガーゼ等種々のものがある。

一、脫脂綿

多くの婦人は常に用ゐて居られる事であるから其必要は云ふ迄もないが、其他之れの應用も隨分廣い、創傷等の上にガーゼを置いて其上に脫脂綿を置いて其上を繃帶する事と成つて居る。又綿はガーゼに比すれば地が緻密でもあり又小く丸めるにも便利だか

ら、藥を浸したり、軟い處を拭つたりするには都合がよい。

一、繃帶

繃帶と云つても其種類は多いけれど、普通單に繃帶と云へば卷軸繃帶の事である、卷軸繃帶と云ふのはガーゼを卷いたのもあるけれど、普通のは晒木綿であつて、其一反を取つて兩緣を取り去つて其殘りを三裂四裂五裂等に引き裂いて卷いたもので、其創傷の種類と用ふる場所とに隨つて、便利な廣さを用ふるのである、例へば頭部や上肢には五裂のを用ひ、骨盤部や下肢には四裂のもの、胸部や腹部には三裂のもの、指や趾の樣な細い處には五裂のを更に二裂にして用ふると云ふ風で、各部合のよい廣さのを買ひ求める事ができる。普通の卷軸繃帶の他に、是非備へて置き度いのは三角繃帶である。之れは三尺四角な金巾木綿を角を合して二つにした位の大さのもので、用ひ方によつては實に重寶なものである。よく用ひるのは腕や手の痛い時に此三角繃帶を用ひて腕を首に吊つて居るが、此他頭部でも關節でも、手足でも鼠蹊部でも何處にでも此三角繃帶一枚で卷軸繃帶の代用が出來る、手輕でもあるし、用法も簡單で實に便利なものである。

一、ピンセット

人間の手は如何程丁寧に消毒しても全く無菌にする事は甚だ困難で有るが、器械類は消毒藥液に浸すとか、熱氣で消毒をするとかにて全く無菌のものとする事が出來る。故に創傷等に直接觸れたり、又は觸るゝ物を取扱ふ時には成べく菌の附著して居る人の手は使用せずに器械の手を借るがよい、ピンセットは此爲の道具で、殊に其尖は細くて微妙に出來て居るから、不器用な手よりは餘程手極好く仕事ができる。

一、鋏

鋏も一つ無ければならぬ、繃帶材料を切るにしても一定の鋏を定めて置いて、石炭酸でゝも消毒して用ふる樣にすれば安心である。

一、ゴム管

いゝ加減な筆の軸位の太さのゴム管は用の多いものである。四肢の出血等の時に、突然の事で如何して血を止めてよいかわからぬ、分らぬからと云つて其儘醫者の來る迄湧出づる血を捨て置いては生命にも關する事となるかも知れぬ、其樣な時には何は兎もあれ出血する處を淸潔なガーゼか脫脂綿で壓するがひどい出血の時には此ゴム管を用ひて手足の出血部よりも體の中心に近い方を強く括るのである、括れば血管が壓せられて血が通らなくなるから、出血のやむのは當然の事である。勿論之れは醫者の來る迄の應急の手當に過ぎぬ、此儘にして長く血管を壓して置いては大變な事になる。又ゴム管は藥を飲む爲に使用してもよい、起き難い病人が藥を飲むのには別に藥飲蓋と云ふものもあるが、假にゴム管をつけて吸ふのも一の方法である。又時によつてはゴム管を多くの孔をあけて排膿管として、膿の多い創等に用ふる事もある。其他用途は多い。

一、藥飲蓋

前記ゴム管で藥を飲む代りに藥飲蓋を用ひてもよい。之れは洗ふにも便利で、見た所も淸らかであるから患者にも愉快であらう、陶器か硝子で作つて、口が長くなつて居るから、患者は寢ながらにして藥を飲む事ができる。

一、氷嚢

以前は膀胱を用ひて居たが、之れは破れ易くして取扱ひ難い。現今は種々の材料を用ゐて丈夫で薄くて都合のよいものが多く出來て居る。氷嚢の必要な樣な病氣は突然に起る事が多い、それが殊に夜中の事が多い、何軒も藥屋を叩き起す勞力と患者の苦痛を思へば氷嚢の二三具位は備へて置てもよい。

一、安全針

繃帶や三角繃帶をとめたり、排膿管を固定する爲に用ふる、手輕で安全で便利で、保存するにも危險が無い。

一、膿盤

之れも一つは有つた方がよい、一寸膿の出る腫物の膏薬を貼り代へるとか、創傷の繃帯を交換するとか云ふ様な時には、此膿盤が有らば、出て來る膿を受けたり、膿に汚れたガーゼ等を入れたりするに都合がよい。ピンセツトで取つて膿盤の中に入れる様にすれば直接に手を汚さずにも濟む。此様な道具が揃つて居ないと、手を汚すのみならず、膿の附いた汚物を彼處此處につける様な事となつて、一つの腫物があちらこちらへ廣がつて、治癒し難い様な事になるのである。云ふ迄も無く膿の中には、化膿を起す黴菌が數限り無く居るのであるから、膿の附いたものは餘程注意して、膿が他の處へ附かぬ様にせねばならぬ。悉く之れを膿盤の中へ集めて置いて、危險の無い處へやる様にせねばならぬ。

一、痰壺

公衆の集合する處には、今は必ず痰壺の備へがあるが、個人の家には之れを見る事が少ない。警察で強ひられずば衞生に注意が出來ぬ様では心細い次第である。洋風の建築ならばよいが日本風の家では、室内に痰壺を置く事は少々不愉快な様な場合も多いが別段室内と限つた事は無い、椽側の隅の方へでも置けばよからう。痰壺を置くのは一言で云へば、肺結核の豫防なので有るから、家に結核を病んで居る人さへ無くば強て痰壺を備ふる要は有るまいと思ふ人もあらうが、淺はかな考である、家に病人が無くとも外來の人には如何なる病人が有らうも知れぬ、其様な人に何處へでも無暗に痰を吐かれては大いに困る、廊下に痰壺の備付けあるを知り其家の人のそれを用ゆるを見たらば少し考へた人ならば追々其中に吐く様になるのである。驚く可きは現に結核患者が居ながら痰壺を持たない家の多い事である。云はば其家族に結核を傳染せんと勉めて居る様なものである。不都合千萬である。肺結核の傳染するのは、呼吸器から結核菌を吸ひ込むのが元である、結核菌は患者が咳嗽をした時にも澤山飛び出すのであるが、又患者の吐いた痰の中にも實に無數に居る、其痰が

液状で居る間はよいが、之れが乾燥すれば微細の埃の粉と成つて飛び散つて空氣中に混ずる、此空氣中には無數に結核菌が居る理である、此樣な不潔な空氣を常に呼吸して居る家族の危險は云ふ迄も無い事である。一人でも多く健康に殘し度いならば成べく菌を散らさぬ樣にせねばならぬ、其爲には痰は必ず痰壺に吐き痰壺の中には後に述べる樣な消毒藥を入れて置いて、直に菌の死ぬ樣にしなければならぬ。

一、尿器

病人は成べく動かさぬ方がよい、尿も自分で行くよりは取つてやる方がよい、取つた尿は尿器に入れたまゝで便所にでも置き、醫者の來た時に見せる樣にすれば、醫者の診斷や治療の上にも大なる便利である。

一、便器

患者によつては便も牀の中で取つてやらねばならぬ事が往々ある。

（未完）

家庭衛生漫録（其四）

醫學士　S・U・生

家庭の教育

家庭教育の大切なことは今更喋々しく申し上げる必要もありませぬ。併し三つ兒の魂百までと申しまして、幼時に僻み根性を養成するときは、中々生涯矯め改むることの難いものであります。小兒の健康上の養育は如何に行き屆いても知育も養成せねばならず、又德育も養成せねばなりませぬ。

幼兒に混雜々々と教へ込むことは佳くない習慣であると思ひます。嬰兒のときに種々の言葉、種々の六かしい動作等を教へることは、未だ發育しない嬰兒の頭腦を働かせるのであつて生理上甚だ宜しくないのであります。小兒は小兒らしくなくてはならぬ、強いて小兒に老成たことを教へる要はないのであります。之れは大抵の家庭で小兒の爲めをは

からないで云はば面白半分に爲るのであるかと思はれます。悪く申せば玩弄視して居ると云ふて良いのであります。俗にも十歳で神童十五歳の才子二十歳で普通の人間と申しますのも尤もであります。幼兒の老成るのは都會に多くて、田舎には尠なくあります。田舎の小兒は都會の小兒と比較すると幼時に於ては、知育上の差は著しく遅れて居ります。併し段段と教育して中學時代から中學卒業の頃になると、大差がなくなつて參ります。昔から英雄豪傑は文化の早く開けたる都會よりも却て山間僻地の朴訥な人間の内に多い様に思はれます。夫れから云つても決して腦髓の熟成しない時に六かしい事を敎へて早熟を祈ると云ふことは却て小兒を害ふことになります。

愛撫にも程度がある

愛を過しては却つて小兒を傷ふのであります。餘りの美服美食に飽かしむるときには必ず繊弱い者となります。如何に多くの山海の珍味を給つても人間の胃の腑の働きには一定の制限がありまして、其等を凡て一々消化しきれるものではありませぬ。夫れよりも却て粗食でも一定の身體の運動を成さしめて、能く消化せしむるのに越したことはないのであります。衣服とても其の通りでありまして、衣服の要は人間の勢力を維持する丈の體温を保たしめて、直接に外氣の刺戟に觸れしめず皮膚の表面と外氣との間に一定の新陳代謝を行はしむるのが目的であります。其れですから外氣の温度に注意して一定の重ね著をせねばならないのであります。然るに愛が度を過すときには無暗と厚著をさせて自然小兒の皮膚の抵抗力を減退らす様にするのであります。是により小兒を溫め過ぎることは佳くない。諺にも小兒は風の子老人は火の子と申します。天氣の佳いときには時々は外氣にあたらして、皮膚を堅く血氣を強くさせる様に勉めねばなりませぬ。時々外氣にあたらなければ膚脆く寒さに感じ易くなりまして種々の煩ひが多ふ御座います。實際に餘りに子供を大切にして

室内に閉ぢ込めて外出もさせないときは、少しの寒風に遇つても直に寒冒に侵され易いことは能く看るのであります。

保姆の選擇に注意すべし

小兒を養育するに保姆を要するときは、其の品性、教育、健康に注意せねばなりませぬ。行爲邪にして僞り多く擧動恣まゝなるものは、之れを直ちに小兒に見習はしむるのでありますから愼まねばならないことであります。教育も普通の程度を經たるもの位は望しいのであります。嬰兒を養育するのに何も教育は必要ではなさそうでありますけれども、教育あれば自然品性も高いのであります。然し健康が最も必要であると思ひます。健康勝れざるもの殊に結核に罹れるものなどは、小兒に傳染し易ふ御座いまして、甚しき危險であります。常に保姆の健康に注意して一朝小兒の爲めに愛うべき病に犯されたるときは直ちに解傭又は小兒に近づかしめない様にせねばなりませぬ。凡て小兒は智術ほ發育するの途にあるのでありますから、保姆の行爲、言葉等を見習ひ聞き習ふのであります。家貧にして保姆を傭ふ能はざるときは以上の心得を世の母親たる方々に望むのであります。

趣味と遊戲とに注意すべし

小兒の紙鳶を揚げ、獨樂を廻はし、手球をつき、球を捕ること等は無邪氣なる遊戲であつて、唱導すべきものであるけれども、博奕に似たる遊びとか、人に害を及ぼすとか、物を苦しめ、又金錢を費す遊戲の種類は決して爲さしめぬ習慣を付けることが必要であります、尠なくとも淫樂に傾けるものは早く禁じなければなりませぬ。凡て小兒の教育は餘りに嚴に陷るときは却て僻み根性を養成する様になりますけれども、惡癖と認めたときには決して放逸にしてはなりませぬ。是れが家庭教育の必要なる點であります。

長命法

仙人

日本では『人生五十年』と云ふことを、口癖の様に、誰も彼も曰ふてゐますが、これは甚だ良くないことで、日本人の氣の少さいことを、證明する詞であり、實際人の生命と云ふものは、幾年であるかと云ふことは未だ定めた人はありませんのに、勝手に五十年と云ふ様に限りを付けることは、好ましくないことであり、また實例を見ても五十年以上に生きてゐる人は、極て澤山あります、それ故是非とも人生……年と云ふ様な詞を造つて置く必要でもあるとすれば、たつた五十年許にしないで、モー少し氣を大きく持つて、せめて『人生僅かに三百年』とでも曰つた方が、立派でもあり又人聞きがよいと思ひます。

日本は島國であつて、狭い所に澤山の人が、あくせくして、住つてゐるものであるから、衣食住の材料を作るのにも困難であり、從つて生活も容易でない故、少し年を取つて來ると、大變若い者に對して遠慮をして、自分はモー老人に成つた、人生五十年である、私などはモー生きてゐる役目がすんだなんて隱居してしまふ様になります、これは狭い國に吾々の様な老人が、いつまでも生きてゐて、若い者の邪魔に成つてはすまぬと云ふ考があるのと、モー一つは、老人に成ると何事もつゞまやかに成つて、何んでも儉約をする様に成るものでありますから、モー少しは延してもよい自分の生命までも儉約するがために起る結果であります。今日の日本人は、そんなけち〳〵した心を持つてゐてはなりません、今假りに人生を五十年として、計算を立てゝ見ますと、次の様な結果になります。

小學校から高等女學校を卒業して先づ、女一人前の國民教育が濟むのでありますが、これが平均したところで、十九歳と見てよろしい、それから家事のお稽古、裁縫、お花、お茶、御琴など一と通りの御修業に二三年位掛けて、廿二歳で結婚するとします、

こゝで一寸申して置きますが、日本人の結婚は少し早い樣であります、これは良くないことで、醫學上から申しても二十歳以下で結婚することは、餘りお薦め申すことは出來ないのであります、韓國の國勢の揚らないのは、國民に氣力がないためであります(ピストルで人を射つたりする元氣は、これは別物であります)、なぜ韓國民に氣力が無いかと申しますと、これは結婚が早いからであります、一と通り資産があつて結婚の費用が出せる家では、十一、二歳(男子)に成れば結婚すると云ふ有樣であります、男子が十一、二歳で結婚するのを以て見れば、その配偶となる女子の年齡は、言はずもがな、日本で云へば未だ前髮を垂らしてゐる時分であります、早婚の弊は韓國の實例で以て明であります、さて話が横道に這入つてしまいましたが、前申す通り二十二歳で結婚して、茲に初めて、女子としての尊き、價値多き生涯が始まります、女子が女子として、本當の役目をするのは、これからであります。

この樣にして一人前の女子が出來上るのでありますが、さてこの先幾年生命が殘つてゐるかと考へて見ますと、誠に心細いことではありませんか、たつた二十八年。

結婚して、直きに小供が出來たとしても、男の兒ならば、漸く大學を卒業して、これから自分の子供の天晴な活動を見て樂ふとする時に、モー五十歳、お約束の生命は、すつかりおしまいに成つてしまいます。人の親となつて、自分の小供が成人して、世の中で活動するのを見られない程情ないことはありますまい。

大體計算して以上申しました通りでありますから、『人生五十年』と云ふことは、全くの大嘘であることが判りました。

或動物學者は動物の年齡を定めるのに五乘法と云ふことを考へ出して、動物の身體が立派に整ふ年齡に五を乘じて、その數をその動物の年齡と定めると云ふのであります、これを人類にも當嵌めることが出

來るとすれば、人間の身體は二十歳で立派に整ふものでありますから、二十に五を掛けて百歳が普通の年齢であると云つてもよろしい、大隈さんは百二十五歳までと申されますが、寔に結構なお考と思ひます。

人間の身體は、すべて精神の作用で支配せられてゐるものでありますから、精神の持ち樣一つで、身體を健康にすることも出來れば、また病氣を拵へることも出來ます、『病氣は氣から出る』と云ふことは、全く本當のことであります、それ故大隈さんの樣な氣に成つて、『人生五十年』などゝ云ふことは、夢にも言はない樣にしたいものと思ひます。

さて外國人はどうであるかと考へて見ますと、日本人とは餘程氣が大きくて、實際生命も長いのであります、『人生五十年』などゝ云ふことは少しも申しません、五十歳位は未だ若者の部類であります、六十歳から七十歳になりますと、少し年を取つたと云ふ考へが出るさうであります、これは實際のお話で、これまで日本に參りました、外國の有名な人は大抵六十歳近くの人であります、英國の議會に行つて見ますと、議員の頭が、皆光つてゐる、日本の議會でも議員の頭は光つてゐる、併し英國のは髮が無くて光るので、日本のはチックで光るのだと云ふ話がありますが、これはよく穿ち得た詞だと思ひます、大學の教授などを見ましても五十歳位では未だ〳〵若い内ださうであります、これ全く日本人の樣に、年齢の儉約をしないためであります、男子でも女子でも同じことであります、どうか日本でも、こう云ふ樣な風に成りたいものであります。

さて種々つまらないお話を致しましたが、本題の長命法のことをお話致しましょう、併し私が申上げる長命法と申すのは、世間で申す長命法の樣に、むつかしい、學問上の研究をして、愚につかぬ理屈を列べ立てるのではなく、實際行ふてゐる人に就てのお話であります、それと申すのは英國の雜誌で「レヴュー、オブ、レヴュース」と云ふのがありますが、それに

長命した人（現に生きてゐる人）の生活法が出てゐましたのを見ますと、誠に簡單であつて、而も却々道理のあることゝ思はれますから、その內で生活上に最も必要な、食物と飲み物とのことについて、大體を皆樣に御紹介申して、御參考に致さうと思ふのであります。

ウイリアム、ブース

この人は皆樣御承知のブース大將で、先年日本に遊說して演說して廻つた人であります、千八百二十九年の生れでありますから、本年で滿八十歲、毛髮はモー眞白でありますけれども、却々健康であります、世界中老人の株でこの人位活動してゐる人はありません、その精神の活きと來ては、とても他の人が眞似など出來るものではないのであります、何故この年齡に成つて、こんなに壯健であるのかと申しますと、そこには一ツの理由があります、即ち始終活動してゐると云ふ理由であります、御承知の通りこの人は年中いつでも所々を巡廻して演說をして居る人でありますから、常に違つた空氣の內で生活をしてゐるのであります、この樣に始終遊行してゐると云ふことは、身體の爲に大變宜しいのであります、動物でも始終動物園の內に居るものよりも、山野に居て自由に運動して居るものゝ方が壯健であります、ブース大將の健康であるのは、常に活動してゐると云ふことが非常に有力な理由であります、食物に就いてはあまり注意してはゐない樣で茶などは十六杯から二十杯位飲むことがあるさうであります、そしてさう云ふ時には口癖の樣に I. have been saved from drink and sared from tobacco, but I have not been Saved from tea（酒と煙草は全く、やらないけれども、茶だけは、どうしても飮まずにはゐられない）と云つてゐるさうです、まことに正直な申分で、八十に成つても、却々可愛らしい所があります、前に申しました通り、始終動いてゐる人でありますから、何こそ娛樂と云ふものはありません、ブース大將の手紙を譯して見ますと次の樣でありま

す。

(一)食物　他人の模範と成る様な養生は致しません、併し始終心掛けてゐることは、滋養に富んで消化しやすい食物を適度に食べてゐます、肉類、魚類、禽鳥類などは近年用いないで、麵麭バタ、穀物類、乾酪、野菜などを食べて、時々果物を食べることもあります。

(二)飲料　牛乳を入れないで茶だけを用います、非常に咽が渇くときには、炭酸水など用いることもあります、アルコール類は一切用いない様にしてゐます。

(三)喫煙　煙草と云ふものは一切口にしたことはありません、他の人が煙草などを喫む隙には、私は神の教を悟り、善を為すことを考へます、ドーカ皆様もこれだけは、私の様になつては、如何でしようか。

(以下次號)



雜報

○女學生の病氣統計

東京麻布日ケ窪なる府立第三高等女學校にて調査せる同校過去三年間の統計は左の如し。

缺席者百人に對する各病の割合

	三十九年	四十年	四十一年
全身病	四〇、六二	三九、五六	三九、八四
神經系病	八、〇四	六、三五	一一、六二
呼吸器病	一二、五八	一四、九一	四、六九
血行器病	三、二〇	三、七七	四、四六
消化器病	一三、六一	一八、六三	一九、一四
泌尿器病	〇、二一	〇、三五	一、二八
生殖器病	四、九五	一、七三	四、〇九
眼病	〇、八二	二、〇六	〇、九五
耳病	一、八六	二、二六	一、一三
外皮病	一、二四	一、六八	一、九三
運動器病	一、六五	〇、九七	一、三六
外傷及不慮	一一、一三	一二、五五	九、七三
頭痛及其他	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

○國費の看護婦養成

丁抹政府は國費を以て、國內適當の看護婦養成所を補助し、正當の教育あり且つ誠實有爲の看護婦を養成せんことを計畫し議會に協贊を求めたりと云ふ。而して其費額は一名の看護婦に對し約四百クローネンを限度とし、仍ほ赤十字事業に關すべき義務を負ふ者には六百クローネン迄を支出すべき特例をも設けたりと云ふ。

○支那婦人の自殺

社會現象の惡産物として數ふべき一の流行的自殺は、今や各種の方面に於ける社會的學者が、研究問題の一として窃かに腐心する所となりたりとは、世界に汎く知られたることなり、或學者の說に據るに元來自殺は各其國習、國俗に從つて、其方法、時刻場所、動機等に特殊の差異あるものにして、又時代的關係に從つて大に其趣を異にするものなり。我國に於ても、古來頗る多數の自殺に就きて傳へらるるものなるが、これを其時代に從つて類別すれば著しき變遷を示めせることを知るべし、已に明治年間に於ても初年と現今とを比較すれば、極めて著しき差異あることを見る、明治以前の人が到底夢にも見ること能はざる自殺方法は、明に明治の文明に伴なふ、人智の進歩に依つて作り出されたるものにして、噴火口に飛び入り、知名の瀑布に墜落することなどは、卽ちこれである、これを井戸自殺、首吊り自殺などに比較すれば、餘程の差異あるものにして人智の進歩に伴なつて、新奇を好むの結果から起り來つた現象である。これと同樣の關係は又各〻國に依つて顯はれ居るものにして、殊に支那婦人の自殺は餘程其趣を異にせり、支那婦人は、日本の婦人とは異りて、自由に外出すること能はざるが故に、淵川に身を投げるが如き自殺法は極めて稀有なり、又縊死も尠しと云ふ、而して最も屢〻行はるるものは、鴉片自殺にして、時としてはマッチの頭子を多く嚥下するものありと云ふ、又稀には金塊を飲むものありと云ふ、要するに現今は鴉片自殺が、最多數

を占め居るものの如し、而して其動機及び目的は如何と云ふに、極めて幼稚にして、寧ろ滑稽に類するものなり、即ち最も重大の原因となるものは、怨を酬ゆるために、自から變死を遂げて、祟らんと云ふ觀念に本づくものなりと云ふ。

尚ほ同一の原因にて、更に偏執のものは怨恨ある者の家に至りて、其家の内にて自殺を遂げ、官省の檢視を受くる等のために、非常の迷惑と散財（檢視の官吏に贈賄して、事を祕密の間に落着せしむるため）とを及ぼしたるのみならず、其家を化物屋敷に化せしめん旨思なりと云ふ、其他良人の不品行を諫めて、虐待せられたるため、人より侮辱せられたるを憤り、子なきを恥ぢ、なども亦自殺の原因として多數を占むるものなりと云ふ。

大日本婦人衛生會記事

○山形支會例會

舊臘十二月十一日午後一時より女子師範學校に於て例會を開く、出席者三十餘名、西山女學校長の有益なる講話あり、行て割烹實習をなし、散會せしは四時頃なりき。

○山形支會入會者

● 通常會員　關原かめい子

○新潟支會入會者

（竹山會長紹介）

● 特別會員　鍵富てい子

○轉居

● 佐世市上矢岳町十一へ　大舘きみよ子
● 廣島市平塚町二四三ノ二へ　深井てろ子
● 府下豊多摩郡澁谷村大字澁谷字猿樂七七六へ　森園子
● 小石川區大塚辻町五へ　濱さん子
● 府下荏原郡北品川御殿山二八七へ　篠原千代子
● 駿河國沼津町下本常盤町東方寺前へ　福地衣子
● 府下豊多摩郡代々木一六九へ　國澤蝶子
● 牛込區矢來町三山里四六へ　今井倭文子
● 牛込區赤城元町三六へ　神山まさ子
● 芝區芝公園二十二號へ　西澤ゆき子
● 麹町區飯田町二丁目へ　桑原倖子
● 日本橋區濱町一ノ二へ　安藤つま子
● 府下荏原郡入新井村新井宿根岸一四八へ　橋本とよ子
● 麻布區龍土町五十七へ　橋本貞尾子

タカヂアスターゼ

●消化不良に就て熊本醫學専門學校長谷口博士は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の脹、太疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと。又本邦消化機病學の泰斗長與博士は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すされはタカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

●消化力強大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる本田博士の學位論文に徴するに坊間に販かるゝ多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し數倍乃至十數倍を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は眞正品は他摸造類似品たることを區別し得るなり、タカヂアスターゼの説明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●世に幾多の摸造品及類似品あり高峰博士發見のヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舗にて取次販賣す



●營養增進の目的を以て虛弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に肺結核患者に之を服用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長佐多博士は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とす、と又在京の栗本博士は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、柴山博士も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧けたるを公示せられたり

●藥効均等論は輓近醫學者間に唱道せらる、所なり、內務省横濱衞生試驗所長西崎藥學士の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれとも其糖化の効力は固よりシリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なりこれパーク、デビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・二—〇・三錠劑(〇・一三)なれば一錠—二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

（後附の二）

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改選庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し既納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及會員外篤志者より金品の寄贈あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に揭げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公推し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の推擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ推任ス各役員ノ任期ハ一ケ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル片ニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ケ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ケ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

明治三十四年二月三日創立 宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ因て社會全般の幸福を増進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及贊成員の家族竝に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり ●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢 ●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す ●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす ●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす ●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし ●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す ●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし ●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし ●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす ●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし ●第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黒塗箱入送費九錢）六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を致し會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なし御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地
私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　莊司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十三年一月十六日印刷
明治四十三年一月二十日發行（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍